

分科会討議日程

第 10 分科会 「 家庭科教育 」

共同研究者氏名(所属)	大矢 英世(宮崎大学)
分科会役員氏名(学校名)	石坂 寿子(上田千曲高校) 手塚 美穂子(阿南高校)

11月4日(土)

時間割	レポート題名	学校(支部)	氏名
問題提起 13:00～ 13:20	課題提起	上田千曲高校	石坂 寿子
	共同研究者から	共同研究者	大矢 英世
討議 I 13:20～ 14:40	1 「自ら願いをもち 友と関わりながら 学びを深める子ども」	松本市立芳川小学校 (松塩筑)	上原 愛海
	2 「家庭でもやりたい！」と思える家庭科の授業づくり	辰野町立辰野西小学校 (上伊那)	村澤 陽介 太田 知里
	3 「7地区の新校について」	諏訪二葉高校(諏訪)	細尾 三佳
討議 II 14:50～ 16:10	討議の柱: 金融教育・ICT活用		
	4 「金融教育における外部講師の活用について」	須坂東高校(高水・須坂)	羽田 昌代
	5 「ICTを活用した授業」 「憲法と家庭科」	東御清翔高校(上小) 上田千曲高校(上小)	飯島 美穂子 櫻井 幸子
	6 3年フードデザイン 調理実習にタブレット(スマホ)を使った実践	大町岳陽高校(安曇)	太田 友子
討議 III 16:10～ 16:40	まとめ	共同研究者	大矢 英世

参加者への 連絡事項	
---------------	--

第10分科会 家庭科教育

課題提起

I 家庭科研究会がすすめていきたいこと

(1) 自己肯定感を強く持ち、自分の人生を積極的に構築できる力を生徒に付けさせたい。

今の生徒は、幼い頃から生活体験が少なく、絶えず知識偏重の競争にさらされ、結果として自己肯定感が低くなっていることが様々な社会現象の中から読み取れる。高校生は、他者との関係性の中で葛藤しながら自己を確立していく発達段階にある。昨今のIT化は、本来意見の異なる他者との共生に資すべきものであるが、現実には分断や差別を助長している側面が大きく、生徒への影響も見過ごせない。

高校家庭科の授業では、生徒自ら課題解決や作品を完成するなど結果を導くことにより、充実感や達成感を得ることができる。また、仲間と意見を出し合い、協力して実験・実習を行うことで他者との相互理解、集団の一員としての存在意義や成長を感じ取ることができる。こうした経験と科学的に裏付けられた理論を学ぶことで生徒に自信を与え、それが自己肯定感の向上に結び付く。それらを積み重ねることで生徒自身の人生を積極的に構築できる力につながる授業を目指していきたい。

(2) 現実から出発し、将来の生活を自分自身で主体的に生きる力を生徒に付けさせたい。

生徒の家庭の経済状況はますます格差が広がり、深刻な困難を抱え、さらに孤立感を深めている生徒が増えている。また、実現困難と思われる働き方改革など、生徒の将来には、人間らしい生活を送ることすら見通せない不安な現状がある。グローバルとキャリア教育の名のもとに高校間格差が生じ、生徒の学校における経験は授業の内容だけでなく様々な場面にも差別化が進んでいる。どのような高校であろうと、将来、自分が直面するであろう課題や問題を解決するために必要な知識や技術を学ぶ機会は平等でなければならない。家庭科の授業では、生徒の現在の生活の問題点に立脚し、そこから本来の「生きる力」を身につける授業を目指していきたい。

(3) サステナブルな社会の構築を目指すと共に、変化の激しい今の社会に柔軟に対応できるような資質・能力を育てたい。

世界的に海洋汚染や温暖化による気候変動が大きな問題となり、環境に配慮した生活は引き続き重要であると強く考える。二酸化炭素の排出を抑えた生活や、健康を考えた科学技術の発展は、知恵と工夫と生活の技術がなければ実現するものではない。

高校家庭科の授業において、実習や体験をすることにより、環境負荷の少ないサステナブルな生活や命と健康を大切にする方法をイメージできることで、その先の具体的な科学技術の研究や発明につながっていくと考える。生徒の柔軟な能力を十分に発揮させ、社会の発展につながる授業を目指していきたい。

II 討議の柱

- ① 児童・生徒の直面している課題や学習要求に沿い、家庭科の探求的な学習内容や子どもを主体とする授業づくりについて検討する。
- ② 児童・生徒、学校、家庭、地域の状況を出し合い、児童・生徒を主人公にした学校づくりについて家庭科の視点で検討する。
- ③ 時間数・単位数削減の中での学習内容の編成・精選について検討する。
- ④ 新学習指導要領において家庭科がどのようになっているかを捉え、新たに生じている課題を検討し、これからの時代を生きる生徒・児童にどのような力をつけるべきか学び合う。
- ⑤ 家庭科教育の内容が道徳教育にすり替えられないように、家庭科の視点を明確にする。

「自ら願いをもち 友と関わりながら 学びを深める子ども」

～自分の願いをもち、友と関わりながら視野を広げ、実生活に結び付けてその願いを叶えようとする子ども～

1 はじめに

本学級の児童は家庭科の学習について、「作ってみたい」「楽しみ」「家でできそう」など、初めて出会う学習内容にとっても意欲的で活発に取り組むことができている。お茶をいれる学習や、ゆで野菜を作る学習でも主体的に取り組み、できるようになったことが嬉しく、自信となり、「お母さんにふるまいたい」「家族に食べてもらいたい」と家庭や生活に活かしていきたいと強く思える子どもたちが多く見られた。反面、活動前に「難しそう」という印象をもち「うまくできないかも」と不安を感じてしまう児童もいる。この題材では、基礎的な技能を学んでできることを増やし、計画した作品を完成させることを通して、不安が小さな自信に変わり、「今度は誰かのためにつくってみたい」と相手意識をもつことができると考えた。そして、相手の気持ちに寄り添って計画することで願いをもち、その願いを叶えるためにより工夫して家庭で実践しようとする意欲につながると考え、本題材を設定し、授業を行った。

2 実践事例

(1) 題材名 「ソーイング はじめの一步」

(2) 題材展開

過程	学習活動（時間）	・留意点	評価
生活の課題発見	1 なぜぬうのだろう（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りには、布を縫い合わせてできている物がたくさんあることをおさえる。 ・のりやホチキスなどでとめることとの違いから、ぬうことのよさに気づかせる。 ・昨年度の5年生が作った小物の写真や、教師が作った小物を展示し、子どもたちが小物作りに対する意欲を高められるようにする。 	思判表①
色々なぬい方ができるようになって、オリジナル小物を作ろう！			

解決方法の検討と計画	<p>2 どのような方法でぬうのだろう (4)</p> <p>玉結び・玉どめ、なみぬい・返しぬい・かがりぬい、ボタンつけについて、一人ひとり、ワークシートにそって練習を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完成品を観察させることで、目的に応じて丈夫に縫ったりボタンをつけたりするなどの必要性に気づかせ、製作に向けて習得が必要な知識や技能を児童と共有する。 ・ 基礎ぬい実習キットや、教師用の大型練習用布、動画、見本などを用意し、児童が自分に合った方法を選んで練習ができるようにする。 ・ 同じ方法を選んだ児童同士で、一緒に作業したり教え合ったりできるように、教室環境を整える。 	主学態①② 知技①
課題解決に向けた実践活動	<p>3 小物を作ろう (3)</p> <p>①学習したぬい方を使って、小物作りの計画を立てる</p> <p>②③立てた計画に沿って、小物作りを進める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小物作りのポイントとして、①形・大きさ②使いやすさ③丈夫さ④見た目をおさえ、ポイントに沿って小物作りの計画を立てたり、ふり返ったり、次の作品作りへ生かしたりすることができるようにする。 ・ 製作途中の作品（針が刺さっていないもの）を掲示し、授業時間以外でも、児童がお互いの作品を見合えるようにすることで、次の作品作りへの意欲をもてるようにする。 	知技② 思判表 ②③④
実践活動の評価・改善	<p>4 手ぬいを生活に生かそう (1)</p> <p>【本時】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のために作った作品をふり返ったり、友だちと作品を見合ったりして気づいたことを、次の作品作りへ生かせるようにする。(ワークシートの工夫) ・ 誰に、何を、どんな工夫をして作りたいかを、簡単な計画表に記入する。 ・ 次の作品作りは、夏休みの自主学習として取り組ませる。(必須ではない) 	主学態③

(3) 本時案

1) 主眼

自分のための作品を作りあげた子どもたちが、相手が喜ぶ作品を作るためにはどんな工夫ができるかを考える場面で、自分の作品の良かった点や改善点を振り返ったり、友だちと互いの作品を見合ったりすることを通して、こだわりポイントに合ったぬい方やデザインを考え、できあがり図をかくことができる。

2) 本時の位置 (全9時間中の第9時)

前時：立てた計画に沿って、自分のための小物を完成させ、次の作品作りへの見通しをもった。

3) 指導上の留意点

- ・計画表が進まない児童には、近くの友だちからアイデアを得たり、板書を手掛かりにしたりするよう声をかける。
- ・計画表が早く完成した児童には、できあがり図に色塗りをするよう提案したり、小物づくりのポイントチェックシートを確認させたりする。

4) 本時の展開

段階	学習活動	児童の反応	時間	・指導 ◎支援 □評価
導入	1 誰にどんな作品を作りたいと考えたのかふり返り、こだわりポイントを選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・妹にティッシュケースを作りたい。 ・毎日使ってほしいから丈夫にしたい。 ・丈夫にするためにはどうしたらいいのかな。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ◎ワークシートに、どんなことにこだわりたいのか(こだわりポイント)を書く。 ・作る相手を意識してこだわりポイントを選ぶように声をかける。
	学習問題:相手が喜ぶ作品を作るためにどのような工夫ができるだろう?			
展開	2 自分の作品を見直したり、友だちの作品を見合ったりする活動を通して、できそうな工夫を出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品のときに、丈夫にしたかったからかがりぬいにしたよ。 ・名前をししゅうしてあるとカッコよかった。 ・ボタンを付けたら使いやすいそう。 ・ペンケースの長さが足りなくて、えんぴつが入らなかったから、今度は長さを測って作ろう。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ◎こだわりポイントとこだわりポイントに合った工夫を一つ一つていねいに確認することで、作品作りの見通しをもてるようにする。 ◎こだわりポイントとこだわりポイントに合った工夫を整理して板書する。
	学習課題:こだわりポイントに合ったぬい方やデザインを考え、できあがり図を書こう!			
展開	3 計画表にできあがり図を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・丈夫になるようにかがりぬいにしよう。 ・妹は、ピンクが好きだからピンクのししゅう糸を使おう。 ・えんぴつが10cmだから、15cmあればだいじょうぶかな。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ◎計画表が進まない児童には、近くの友だちからアイデアを得たり、板書を手掛かりにしたりするよう声をかける。 ◎自分の願いに合ったぬい方やデザインになっているか問うことで、本来の目的を再確認できるようにする。

	<p>4 できあがり図を友だちと見合い、工夫を伝え合う。変更したいところが出てきた場合は、それぞれで修正する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポケットが2つあると、使いやすそうていいなあ。 ・同じティッシュケースでもぬい方が違った。 ・最初は、なみぬいにするつもりだったけど、丈夫にするにはかがりぬいの方がよさそうだな。 ・返しぬいの方がじょうぶにできるけど、ぬい目もデザインの一部にしたいから、なみぬいのままにしよう。 ・〇〇さんのペンケースの計画を見て、もう少し大きくしたほうがいいと思った。 ・ポケットがあると便利だと言われたから、付け加えてみよう。 	14	<p>◎できあがり図を見合い、工夫を伝え合うときに、①こだわりポイントに合った工夫があるかどうか②友だちの工夫で自分の作品に取り入れられそうなのがあるかどうか考えてみるように伝える。</p> <p>◎変更したいところが出てきた場合は、その場で修正してよいことを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと自分のできあがり図を比較することで、類似点や相違点を見つけ、各々にぬい方やデザイン選択のポイントがあることや、個人追究では思いつかなかった考え方に気付けるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 家族の一員として生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための小物作りの製作計画を立てたり、小物を製作したりすることについて、工夫し、実践しようとしている。 (ワークシート、見立て)</p> </div>
まとめ	<p>5 立てた計画を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・妹のために、毎日学校に持って来なくなるティッシュケースを作りたい。そのために妹の好きな色を使ったり、ほつれないようにかがりぬいをしたりする。 ・お母さんのために、使いやすいカード入れを作りたい。ポケットを1つつけようと思っていたけど、友だちの話聞いて2つつけることにした。 	9	<ul style="list-style-type: none"> ・何人か指名する。 ・友だちとできあがり図を見合う活動で、工夫を加えたり修正したりした児童がいれば紹介し、友だちとの関わりの良さに気付けるようにする。 <p>◎全体に計画表が見えるように書画カメラを使用する。</p>

3 実践の様子 ～A 児の変化の様子から～

以下は、A児の「自分のための小物づくり」の製作計画と「父にプレゼントするお守り」の製作計画の比較である。A児は、自分のための小物づくりの製作計画を立てた場面では、丈夫さと使いやすさにこだわったペンケースを作りたいと考えていたが、製作計画には、縫い方や使いやすさを求める工夫などの記述はなかった。実際に製作してみて、立てた製作計画では足りない部分があったと気づいていた。

製作と振り返りを行ったこと、級友の製作過程を目にしたことで、本時の父にプレゼントするお守りの製作計画には、具体的な長さや、丈夫にするための縫い方、縫う順番等が記述されていた。A児の様子から、自分の作品の良かったところや改善点を振り返り、友だちと製作計画を見合ったことから、より現実的な製作計画を立てることができたと感じる。

【自分のための小物づくり 製作計画】

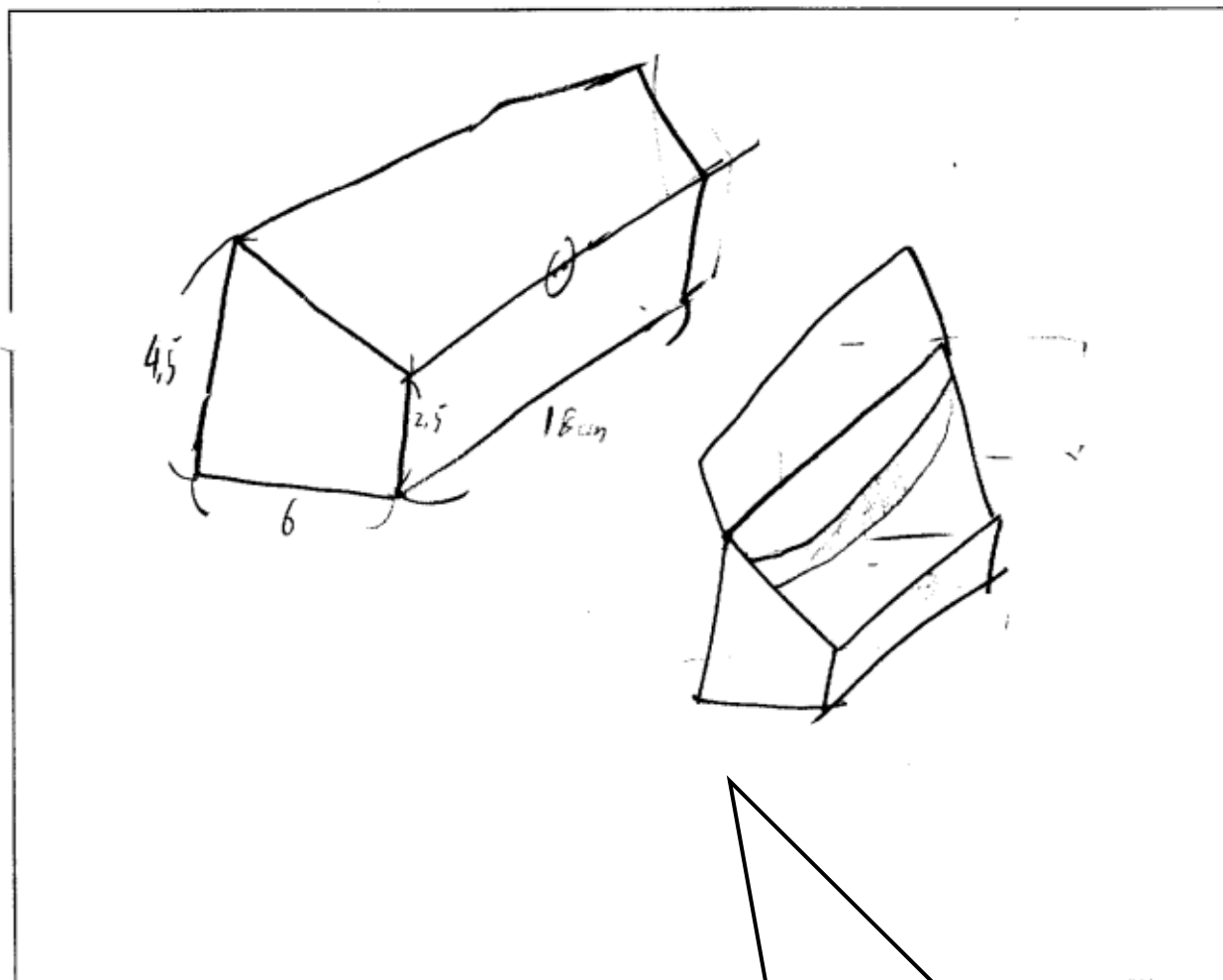
作りたいもの→ペンケース

こだわりポイント→丈夫さ、使いやすさ

このこだわりポイントを選んだ理由

→丈夫じゃないと壊れちゃうし、使いやすくないと意味がないから。

【できあがり図】



長さの記述はあるが、縫い方や縫う順番などの記述はない。
丈夫さと使いやすさにこだわっていたが、丈夫にするための工夫や使いやすくなるための工夫は書かれていなかった。

【父のための小物づくり 製作計画】

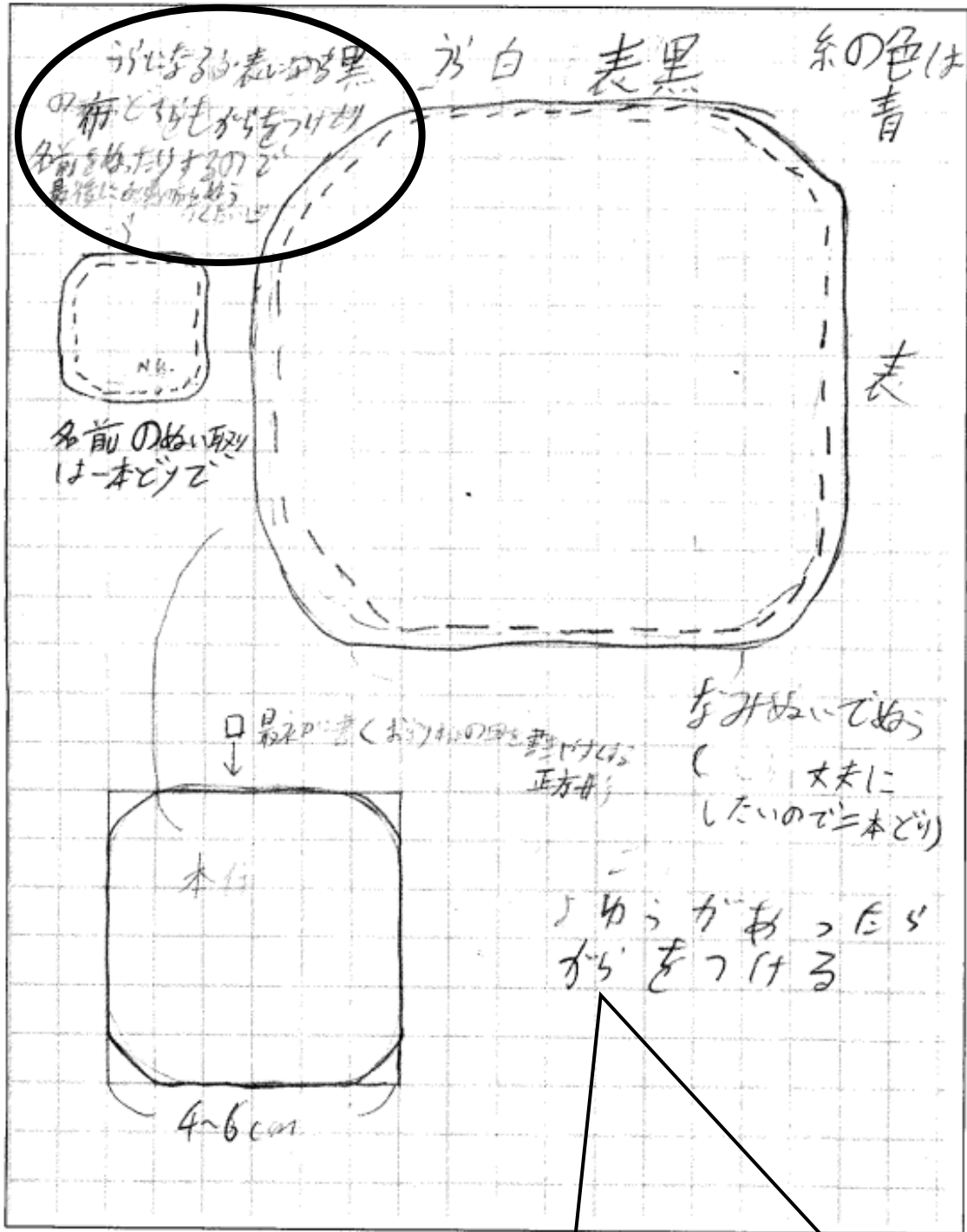
作りたいもの→お守り

こだわりポイント→大きさ、見た目

このこだわりポイントを選んだ理由

→大きすぎても小さすぎても困るし、見た目がいいと心をこめて作ったことが伝わるから。

【できあがり図】



〇部分は、縫う順番について細かく書かれている。その他にも、丈夫にするための縫い方やフェルトの色、拡大図など、工夫して書かれている。

4 実践の成果と課題

今回の成果としては、題材を通してこだわりポイント（形、大きさ、使いやすさ、丈夫さ、デザイン）を設定したことが、子どもたちが「何に気を付けて、何を目標として」小物を作るのかが明確になるきっかけにつながったことが挙げられる。また、友とかかわりあう場面で、同じ小物を作る同士でまとめたことで、「お守りどこから縫う？」「このくらいの大きさならえんぴつ入るかなあ」「あーそうやって縫うのかわいいね」など悩みや疑問を解決する手立てになったことが挙げられる。

課題としては、グループワークを行った際に、まだまだできあがり図を書きたいという気持ちが強く、グループワークには参加せず、黙々と描き続ける子がいたことから、強制的にグループ分けするのではなく、相談してもしなくても自由に選べる、一人で考えたい人というエリアを設定するなどの支援があるとよかったのではないかと感じる。

第10分科会 家庭科教育

支部名 上伊那支部
 職場名 辰野町立辰野西小学校
 氏名 村澤陽介 太田知里

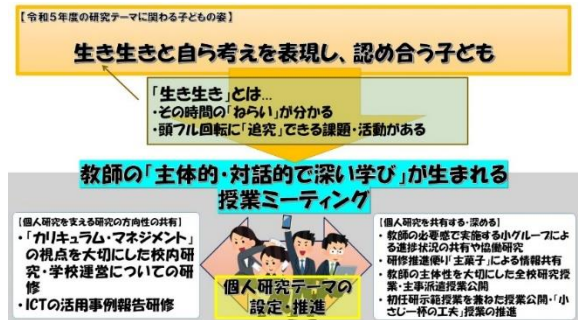
「家庭でもやりたい！」と思える家庭科の授業づくり

～家庭科における主体的に取り組む態度の具体的な姿と単元構成を視点として～

1. 研究テーマ設定の理由

(1) 本校の研究推進について

本校の研究の時間は「授業ミーティング」という名称で、毎週月曜日に位置づいている。授業ミーティングでは、目指すべき子どもの姿実現のために教師一人一人が個人研究テーマを設定し、小グループ活動や研究推進だよりの発行による推進状況の共有や協働的な研究、教師の主体性を大切にした授業公開や授業づくりを行っている。これらの個人研究を、年度当初に行



う「カリキュラム・マネジメント」の視点からの校内研修や個人研究の中間報告、まとめの報告会、ICTの活用事例報告会が支え、研究推進を行っている。つまり本校の研究は、「個人研究において、教師一人ひとりの興味関心をもとに、子どもの『生き生きとした姿』『考えを表現し、認め合う姿』に向かって、研究・研修を積み重ねていく研究推進」という方向性を大切にし、この研究の方向性は3年目となり、目指す姿や研究体制をブラッシュアップさせながら研究推進を図っている。

(2) 太田知里教諭の研究テーマ及び小グループの研究の方向性について

今年度、家庭科の授業について研究を深めたいと考えた太田知里教諭は、本年度の個人研究テーマを「『家庭でもやりたい！』と思える家庭科の授業づくり」と設定した。このテーマ設定の背景には、太田教諭の日々の家庭科の授業実践の中で、「学校の授業が家庭に活かさないことに課題を感じていること」「家庭科＝実習だけという意識を、子どもも教師も脱却したい」「家庭科の学習でも『主体的・対話的で深い学び』を実現したい」という思いがあった。

太田教諭の研究テーマを受け、小グループで家庭科の授業づくりの検討をスタートした。グループの研究テーマを「家庭科における主体的に取り組む態度の具体的な姿の検討および、その育成に向けた授業づくり」とし、授業づくりにおけるめざす子どもの姿を「子どもたちが『自身の生活から始まり、自身の生活にかえていく家庭科の学習過程』を自分で意識・実践できる」とした。その姿の実現のために、以下の5つを研究内容及び手立てとして位置づけた。

【研究内容及び手立て】

- ・単元を貫くねらいを大切にしたい単元構想と第1時の授業の工夫

- ・知識の体系化
- ・知識・技能習得における協働的な学びと個別最適な学びのバランスの良い配置
- ・自身の生活にかえる習得した知識・技能の活用（思考・判断・表現）場面の位置づけ
- ・学習サイクルの見える化

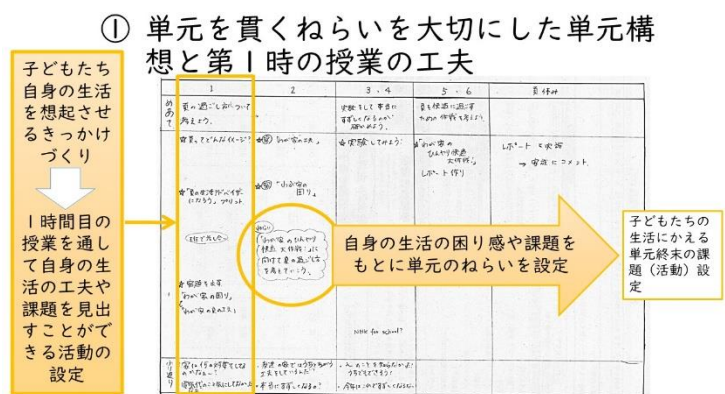
2. 研究内容について ～「夏をすずしくさわやかに」の授業実践から～

(1) 研究内容を踏まえた授業づくりの概要

5つの研究内容を授業づくりの手立てとして、「夏をすずしくさわやかに（「住生活・快適な住まい方）」の単元で授業づくり・授業実践を行った。各研究内容の詳細は以下の通りである。

① 単元を貫くねらいを大切にしたい単元構想と第1時の授業の工夫

表は事前授業における単元構成のメモです。「家庭でもやりたい」と思える授業を目指していくには、子どもたちの生活や経験を出発点とした、ねらいの設定が大切であると考えた。そこで、第一時の授業の中で、子どもたち自身の生活を想起させるきっかけをつくることを学習活動として位置づけると共に、自身の生活の困り感や課題をもとにねらいを設定し、それらが解決される学習活動が位置づく単元構成を検討した。右図は授業者の単元構成メモに、本研究の要素を追記したものである。



右図は授業者の単元構成メモに、本研究の要素を追記したものである。

② 知識の体系化

①の通り、単元序盤に子どもたちの生活や経験を出発点とすることで、自身の生活の困り感や課題が見出されると共に、経験上の工夫も確認することができるだろう。本研究では、子どもたちが経験としてもつ生活の工夫を共有し、それらを整理する学習活動を位置づけ、整理された内容を、単元を通して働かせる「見方・考え方」として、追究していく視点としていくこととした。この実践では、第1時の授業の中で、夏を涼しくするための工夫について、Google ジャムボードを用いて、子どもたちの経験から考えを出し合い、整理していくことで、単元を通して夏の生活を考える視点として、「気温」「風通し」「湿度」といったポイントを見出すよう構想した。この視点を子どもたちは、単元を通して意識しながら、自身の家で涼しくなる生活を考えていくことを期待している。

③ 知識・技能習得における協働的な学びと個別最適な学びのバランスの良い配置

子どもたちと設定したねらいが達成されるための知識・技能習得を位置づける。

知識習得については、ICTの映像資料やGoogle クラウドを活用しながら、個人の習得進度や習得状況に合わせて、個別に学ぶことができる学習環境を整える。

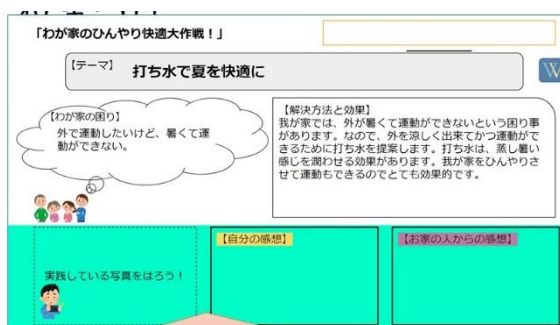
技能習得場面では、習得した知識が活かされ、子どもたち自身の願いや課題に基づいた実験的な学習活動を設定する。活動の中で子どもたちは協働的に追究・試行錯誤をすることで、技能習得を図っていく姿を期待している。

この実践では、NHK for School等の映像資料を活用して、換気や遮光の方法について学習をし、そ

の後、子どもたち一人一人の家庭で実現可能な「家を涼しくする方法」についてきめ出し、きめ出した内容についてその効果や、より効果的になる方法を実験する授業構成とした。

④ 自身の生活にかえる習得した知識・技能の活用（思考・判断・表現）場面の位置づけ

手立ての②③によって習得した知識をもとに、思考力・判断力・表現力が発揮され、自身の家に活かせるプロジェクトを考える活動を設定する。この活動については、単元のねらいが設定された際に提示し、課題解決の方法をまとめていく際に使用していく。この実践では、Google スライドを用いて自身の家を涼しくする方法をレポートにしてまとめ、家庭で実践している方法を写真にとって貼り付け、実践をふり返えられるシートを用意した。



②③によって習得した知識をもとに、思考力・判断力・表現力が発揮され、自身の家に活かせるプロジェクトを考える活動を設定する。

⑤ 学習サイクルの見える化

単元を通しての振り返りをまとめていけるよう共同編集が可能な Google スライドを用いる。子どもたちが、自身の家から始まり自身の家にかえるための学習の足跡を見える化できることや、お互いの学習状況を交流したり、コメントを送り合ったりしながら協働的にかつ個別最適に追究できるようにすること期待した。

(2) 実践から示唆されたこと

以上の手立てを踏まえて事前授業を行った結果、次の4点が示唆された。

1点目は、子どもたちの現状を掴んでいることが大事だということである。子どもたちの生活背景で課題がそれぞれ違うため、子どもたちの生活や経験を出発点として、ねらいや学習活動を位置づけたり選択肢として用意したりしておく上でも、扱う内容の実態を丁寧に把握し、実態に即した単元の構想の必要性を感じた。

2点目は、単元を貫く学習問題の主たる場所は、家庭か学校なのか明確にすることである。家庭科の活動によっては、扱う道具や環境が違うため学校でやったことが直接家庭に結びつかない場合がある。学校内で完結し、家庭に置き換える単元なのか、今回のような生活を出発点とする単元なのかははっきりさせていくことが大切であった。また、後者の考え方であっても、常に学校での学習とのギャップがあるということを意識して授業づくりを行ったり、子どもたちに考えさせたりしていくことが大切さを感じた。

3点目は、3つの知識を統合させる展開を考えていくことである。家庭科で用いられる知識には、①他教科の既習知識 ②実生活からの経験 ③新規の知識と3つの知識があるとご教授いただいた。これらの知識を見方考え方の視点として整理・統合させたり、技能発揮の伴う学習活動の位置づけや実験的活動の位置づけなど、理論としての知識から実験・実践を通して活きた知識習得に向けた展開を考えたりしていくことの大切さを感じた。

4点目は、評価規準を明確にすることである。評価基準を明確にすることで、各時間の学習内容や指導内容の明確化につながっていくと考えた。

3. 実践から見てきた単元構成のイメージ

2の授業実践から示唆されたことを踏まえて、授業づくりの際の単元構成のイメージを下表の通り検討を行った。

【「子どもの生活」を大切に家庭科の単元構成のイメージ】

事前準備	「見方・考え方」の視点を踏まえた単元を通したねらいの設定							
<ul style="list-style-type: none"> 単元の内容における実験把握(カード等) 「マナー」指(ハ)実験内容の検記・準備 	子どもの生活経験の想起 本単元における知識のポイント(体系化された知識の提示)	知識のポイントをもとにした、個々の生活における課題の見出し	課題解決のための知識の習得	自身の課題解決に基づいた実験 習得した知識を活きた知識にする	実験結果を受けて 家庭で実践するための計画	計画の共有	実践(各家庭にて)	実践の振り返り
評価規準の設定	思判表	思判表	知技	知技	思判表	主学態		思判表
	主学態							

単元を始めるにあたって事前準備による子どもの実態把握及び実験的活動のきめ出しを位置づける。単元の序盤では、子どもたちが自身の生活を想起しながら、見方・考え方を踏まえた単元のねらいを設定し、子どもたちの既習や生活経験を基にした知識の体系化と、新たな知識の習得を図る。単元の中盤では、習得した知識をもとに、自身の課題に応じた実験的活動や技能習得を図り、活きた知識にしていく。単元終末には、自身の家庭に活かすことのできる方法としてまとめていく。子どもたちは、この学習過程を意識し、単元をまとまりに捉え、「自身の家庭でもやってみたい！」と願いを持ち、主体性が発揮されることをイメージした。この学習過程に合わせて、学習活動・指導に即した評価規準を各時間に位置づけていく。単元の内容によっては若干の内容の変化や移動があるが、この単元構成のイメージをもとに、柔軟に対応できるのではないかと考えた。

4. 弁当作りを学習活動として位置づけた「食生活」の授業づくり・授業実践から

(1) 単元構成を中心とした授業づくりの概要

教科書「まかせてね今日の食事」の学習内容について、弁当作りを学習活動として位置づけた「食生活」の学習単元を構成した。2(2)及び、3の単元構成のイメージをもとに本時の学習・指導内容、評価基準を検討しながら授業づくりを行った。授業の単元展開及び評価規準は別紙資料①表の通りである。

(2) 第1時～第4時までの授業の概要

第1時では、1学期に6学年で行われた校外学習の際に撮影した自分の弁当の写真や、事前に各家庭でとったお弁当に関わるアンケートを共有し、お弁当作りに対する自身の経験やお家の方の意識について共有した。子どもたちのアンケートを通して、お弁当はどんなときに作るかというテーマによって、中身や意識が変わっていきそうだということに気づいた。また、お弁当づくりの工夫についてをテキストマイニングにかけて、提示することで、単元を通してのお弁当作りのポイントを「色どり・栄養バランス・手早さ」と整理し、この3つを「健康を支える」とまとめ、本単元のねらいを「わたしの健康を支え

る、『My お弁当』をつくろう!』と定め、単元がスタートした。

第2時は、ポイントとして整理した「色どり・栄養バランス・手早さ」それぞれの具体的な知識習得を図る時間とした。教科書に記載された主食・主菜・副菜の構成についてや、Google クラウドに資料として提示した「いろどり」や「手早さ」についての資料を参考に、それぞれのポイントの具体的な内容について確認をし、授業の後半では、それぞれが関心を持った内容について、さらに調べる時間をとり、Google ジャムボードにまとめた。

第3時と第4時では、第2時で習得した知識を活かして、献立作りに入った。最初に、自身がどのような時に食べるお弁当を作るかといった内容を、第1時の内容を想起しながら、お弁当のテーマを決めた。その後、それぞれのテーマと3つのポイントとのかかわりやバランスを確認したのち、献立作りに入った。Google スライドやジャムボードのフォーマットを使いながら、主食・主菜・副菜のメニューや材料を表にまとめる子、材料を栄養バランスの表に配置しバランスを確認する子、お弁当の配置を紙にかき、いろどりを確認する子など、自身のテーマに沿って献立を作成した。また、メニューが思いつかない児童のために、家庭科の教科書に載っているメニューを主食・主菜・副菜に分けてまとめ、資料として使えるようにした。授業のふり返りでは、既習の知識を活かして献立を立てたことへの満足感を感じながら、「本当にこれで大丈夫だろうか?」という確認の必要性も感じていた。

(3) 第5時における子どもの姿と授業参観者からのご意見

第5時を公開授業として多くの先生方にご参観いただき、本時に取り組む子どもたちの姿および本研究について、ご意見・ご感想をいただいた。この公開授業の概要は以下の通りである。

① 主眼

3つのポイントを意識して献立作りをした子どもたちが、栄養教諭の話から自分の献立を見直す場面で、「お・い・し・そ・う」を元にした献立の工夫などを聞いたり、話を踏まえて練り直したりすることを通して、自身の献立の課題を見だし、その解決に向けた見通しをもつとともに、工夫・改善することができる。

② 授業で見られた子どもたちの姿および参観者の考察

【O児】

どの子も、自分のお弁当に真剣に向き合っていた。栄養教諭の話から「弁当が動かないように」ということを直したいと手を挙げ、おかずを増やそうと、レシピをさがしていた。フライドポテトのレシピや、白玉だんごのレシピ、冷凍食品のおかずをいろいろけんさくし、白玉だんごをえらび、メニューに追加していた。先生がまわってきて、バレーボールの栄養ならもっとたんぱく質が必要とアドバイスをもらい、次回はたんぱく質のメニューを増やしたいと感想を書いた。

【KA児】

栄養教諭の話から、栄養バランスに手をあげ、「どれを直したい?」に「い」に手を挙げ、図を描いた。具材の大きさのイメージがよく持てず動くお弁当になってしまうため困っていたところ、先生から表を作成するように促されていた。表ではバランス良くできていたため困ってしまった。考えてはいるが進まない時に、教師が働きかけることで進んでいった。情報量が多く、かえってとまどったり、イメージが持てず、十分な追究にならなかつたりするケースもあった。実際のお弁当箱を持ってきて、イメージさせやすくする(図や量の手立て)があったほうが良いと思った。

【KS児】

配置図をかいてから、おかずの配置図をかえ、ぶどうを入れて卵やきを追加していた。「いろどり」と、「うごかない」を考えながら、配置図をかき直していたように見えた。途中で「ねえ、どうしよう」とつぶやくこと7~8回。途中でI児に相談するものの、「分からん」と言われ、近くを通った栄養教諭に相談することもなく…どうするかと思ったところ、太田先生が来て下さり、アドバイスをして下さったので、何とか完成した。最後の感想に「(栄養教諭の名)先生が言ったように～」とあり、今回の栄養教諭のプレゼンが、とても有効に働き、KS児が15分しっかり追究したことがつながったと思う。

【Y児】

テーマ「栄養お肉山盛り弁当」に向けて、“お肉山盛り”とありながらも栄養教諭の先生の話の4点目、3:2:1というお話が頭にあり、肉が多すぎずナイスバランスで仕上げる事ができていた。栄養士の先生の話は、子どもたちの知識を伸ばす上で必要だと思う。

③ 本研究や授業づくりの方向性について

- ・単元を通したねらいを大切に、単元展開していくことは大切だと思います。特に第1時のところで、生活の中から課題を決め出していくことが、とても勉強になった。
- ・すっきりしていて、わかりやすかった。個人のテーマが出発点というのも、自分の授業改善のために研究をしていくモチベーションにつながると思った。スライド、板書、クラスルームなど視覚化されていてわかりやすかった。
- ・ICTを使いこなし、各シートを行ったり来たりして、追究している子どもたちの姿が時代に合ったものとなっていた。自分の学校、教科でも、さらに進めたい。「おいしそう」の栄養士の先生のお話を初めから入れず、ある程度自分の願いで立てた献立を練り直す時にもってくる、という授業の流れがよかった。課題解決の場面が、設定されていてよかった。

5. 本研究の成果と課題

本研究では、太田教諭の個人研究テーマ「『家庭でもやりたい!』と思える家庭科の授業づくり」を出発点として「子どもたちが『自身の生活から始まり、自身の生活にかえていく家庭科の学習過程』を自分で意識・実践できる」を目指す姿と5つの研究内容をもとに2つの授業づくり・授業実践を行った。本レポートのまとめとして、2つの実践を通して見出された成果と課題を整理する。

(1) 成果

本研究では、「子どもの生活の経験や課題」を出発点とし、単元を貫くねらいを大切に単元構想を大切に、授業づくりを行った。特に、第1時の授業の工夫については、どのように単元のねらいを設定するかということについて、子どもの経験や課題から、本題材に関わる「見方・考え方」を明確にする活動を位置づけたことで、子どもたちが単元の見通しをもつと共に、自分事として単元のねらいをもつ姿が見られた。また、第5時においても、主体的に自身の献立を見直す姿が見られたことは、本時の栄養教諭の話が、子どもたちの課題に即した内容であったことはもちろん、子どもたちが自分事として自身のお弁当のテーマを定めたり、そのテーマ実現に向けて知識の習得が図られたりした単元の構成による影響も大きかっただろう。本単元における子どもたちの「『自身の生活から始まり、自身の生活にかえていく学習過程』を自分で意識・実践できる姿」を家庭科における子どもたちの主体性が発揮された姿の側面とするのであれば、本単元構成のイメージは有効な手立てであったといえるだろう。このイメージを

軸に題材や子どもの実態に応じて柔軟に対応していきながら実践をさらに積み重ねていき、構想のイメージをさらにブラッシュアップしていきたいと考える。

また、本実践では「知識の体系化を図る場面」「知識習得における個別最適な学びの場面」「自身の生活にかえる習得した知識・技能の活用（思考・判断・表現）場面」を計画的に位置づけると共に、位置づけ方としてICTを積極的に活用したことが、子どもたちの学びの促進につながったといえるだろう。知識の体系化の部分ではテキストマイニングを用いたこと、知識習得においては、子どもたちが「いつでも」「必要なときに」資料を見られる環境をクラウド上に整えたこと、Google スライドや Google ジャムボードのフォーマットを活用し、それらの個人の追究の見える化と共有を図ったことについて、どれも参観された先生方から肯定的なご意見をいただいた。また、端末に整理された情報は家庭でも確認しやすく、より家庭で生かしやすい手立てになっていることにも気づくことができた。このように、家庭科の学習過程とICTとは、家庭科の学習内容や個別最適な学びの視点から親和性が高いことが本実践から示唆された。今後、ICT活用はあくまで子どもたちの資質・能力育成のための手立ての一つということを念頭に置きながらも、さらなる題材の魅力に迫ったり子どもたち自身の経験や実態、願いに寄り添ったりできる活用の方向性を探していきたい。

（２）課題

単元構成やICTの活用について成果が見出された一方で、「知識・技能に関わる学習内容の明確化・焦点化」について課題として見出された。第5時の子どもたちの姿や、参観された先生方から、本時の学習内容ともいえる「お・い・し・そ・う」の5つの視点は、情報量として多かったのではないかという話や、単元を通してのポイント「栄養バランス」「いろいろ」「手早さ」の3つとしたが、「手早さ」は小学校学習指導要領の内容にも明記がないため、いらなかったのではないかとのご意見をいただいた。授業づくりの際に、単元後半の調理活動やお弁当作りという題材を考えると、第5時のポイントの数や単元を通しての3つのポイントは大事にしたいという考えであったが、育成すべき資質・能力の視点から考えたとき、やはり学習内容を軸に題材を検討して授業づくりや学習活動の位置づけを検討していく必要性を感じた。

その一方で、中学校との系統性を考えたとき、繰り返し涵養的に学べることへの可能性、またなにより子どもたちの実態に即し、それぞれのテーマや願いに寄り添える手立てやポイントの位置づけとしてこの情報量を考えたとき、肯定的なご意見があったことも事実である。「学習の個性化」における手立ての1つとして捉えたとき、これらの情報をどのように整理・提供していくか検討した授業づくりの方向性についても探していきたい。

6. おわりに ～授業者の本研究のふり返しから～

今回この研究をさせていただいたことで、授業づくりの大切さを改めて実感することができた。家庭に活かしていない家庭科の授業から脱却したく、「『家庭でもやりたい！』と思える家庭科の授業づくり」をテーマに、多くの先生方からご指導をいただき、授業づくりを行ってきた。家庭とのつながりを大事に授業を行ったことで、これまでには見られなかった、自分が見つけた課題に対し試行錯誤している子どもたちの姿がたくさん見ることもできた。この研究を通して学んだことを、家庭科のみならず他の教科でも活かし、子どもたちが主体的に学習できる授業をつくっていきたい。

支部名 諏訪
職場名 諏訪二葉高校
氏名 細尾三佳

7地区の新校について

【はじめに】

昨年度、家庭科教育分科会において発表されたレポート『旧第4通学区の「新総合技術高等学校」における家庭科について考える～“新たな社会を創造する力”を育む家庭科とはどうあるべきか～』が大変すばらしかったことから、7地区の新校の様子についてまとめて発表できないか、との打診を受けた。支部教研において話し合ったが、まだまだ途中経過というところで、残念ながら形としてまとまる内容には至らなかった。そこで、本レポートでは、これまでの再編計画の流れを確認することを基本としてまとめており、実際の学校の様子については発表の際、説明する形にさせていただくことをお許し願いたい。

【1】長野県教育委員会 高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針(案)2018年3月

『第2期再編計画の策定に向けて』において示された地区の特徴 以下抜粋

※「岡谷諏訪総合技術新校」(仮称)に関わっている部分に下線を引いている

① 中学校卒業生数の予測

高校入学年	2017年	2025年	2030年
中学校卒業生数	1,912人	1,642人	1,462人
2017年に対する比率	100%	86%	76%

② 現況・課題

- ・中学校卒業生数が2030年には2017年の76%まで減少する見込みである。
- ・隣接する旧第8、第11通学区との間で、170人程度の流入超過となっている。
- ・県外への流出が多く、山梨県を中心に県外へ90人程度が流出している。
- ・中南信地区の私立高校を中心に県内私立高校へ250人程度が進学している。
- ・諏訪市、下諏訪町、岡谷市に募集定員160人から240人の都市部存立普通校が5校配置されているが、現状の配置のまま推移すると、少子化の進行により学校規模が縮小し、都市部存立普通校として十分な規模が確保できなくなることが考えられる。
- ・農業、工業、商業、家庭の各専門学科が分散しており、今後の少子化の進行の中で、学科の一層の小規模化が危惧される状況にある。

③ 再編計画の方向

- ・隣接県への流出が多い中で、地域の子どもを地域で育てる観点を大切にしながら、地域の中学生の期待に応える学びの場を整備していく必要がある。
- ・この地区の今後の少子化の進行を考えると、再編の実施を前提に地域の高校の将来像を考えていく必要がある。
- ・専門学科の小規模化が想定される中で、専門教育の活力を維持充実していく必要がある。
- ・これらの観点を踏まえると、都市部に適正数を考慮しながら規模の大きさも活かした都市部存立校を配置するとともに、学びの場の保障の観点も踏まえながら中山間地存立校を配置していくことが考えられる。
- ・その際、総合技術高校の設置等により専門教育の維持充実を検討していくことが考えられる。

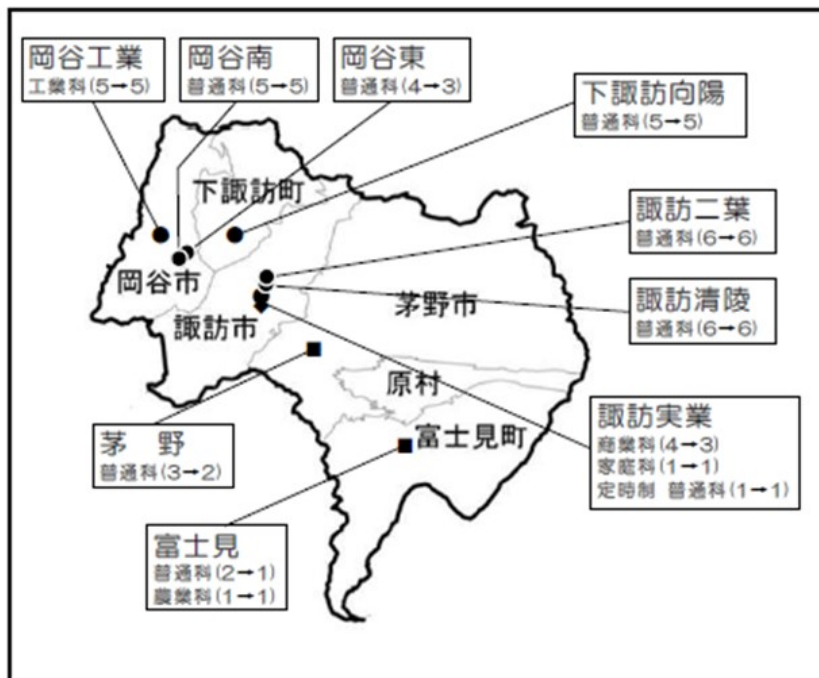
【2】長野県教育委員会 高校改革～夢に挑戦する学び～ 再編・整備計画【三次】 2023年1月
以下抜粋

3 旧第7通学区

(1) 「実施方針」策定時の高校配置

ア「実施方針」において基準年としている2017年度の高校配置

カッコ内は募集学級数（2017年度→2022年度）



- ・ 全日制課程 ● 都市部存立普通校 5校：諏訪清陵高校、諏訪二葉高校、下諏訪向陽高校、岡谷東高校、岡谷南高校
- 都市部存立専門校 2校：諏訪実業高校、岡谷工業高校
- 中山間地存立校 2校：富士見高校、茅野高校
- ・ 定時制課程 ◆ 夜間定時制 1校：諏訪実業高校

(2) 地域での検討と地域からの意見・提案

「協議会」からの意見・提案(抜粋) 「諏訪地域の高校の将来像について 意見・提案」より

※名称「諏訪地域の高校の将来を考える協議会」2021年3月22日に意見提出

第IV章 諏訪地域に望む学びについて

2 諏訪地域の高校に望む学び

- (1) 諏訪地域の子どもたちが地域の中で自分の希望がかなえられる多様なニーズに対応した学びの場
- (2) 諏訪地域の歴史や伝統文化、地域の産業、豊富な観光資源等の地域の魅力についての学び
- (3) 諏訪地域から日本全国や世界に羽ばたく国際的な感覚や先進的な資質の育成を目指す各分野にわたる卓越した学び
- (4) これからの諏訪地域を支える医療、福祉、行政、教育、法律等の担い手の育成に繋がる学び
- (5) 多様な学習経過や生活スタイルに対応でき学び直し等が可能な柔軟な学びや、生徒が持てる力を最大限発揮できる特別支援教育の充実を目指した学びの仕組み
- (6) 「東洋のスイス」と謳われた精密機器産業や、地理的条件や気候条件を活かした農業分野、寒冷な気候を活かした寒天づくり等地域の伝統産業の担い手を育成する学び
- (7) 県内でも屈指の多様な観光資源を有する地域の観光の担い手を育成する学び
- (8) 県内外の他地区への進学者の流出抑制や県内外の他地域からの移住につながる魅力ある教育環境の整備
- (9) 幼保小中高大それぞれの発達段階に応じた学びの連続性や連携が重視された学び
- (10) 新たな時代の地域創生のモデルとして地域の魅力化につながる循環型の学びの仕組み

第V章 諏訪地域の高校の将来像について

旧第7通学区(諏訪地域)全体の高校の将来像としてまとめ、「想定される学校像のイメージ」を示した。

1 卓越した探究的な学びを実践し地域や世界の課題を考える都市部存立普通校

将来の子どもたちが自分の目標や将来の進路実現に向かい、新たな学びである「探究的な学び」による主体的な学びによって自己の可能性を広げることができ、多くの仲間たちと切磋琢磨できる規模の大きな学校の設置が求められる。また、国際化社会に対応可能な留学や国際交流を通じて国際感覚を養う学びの機会についてより一層取り入れることも考えられる。

地域に密着した学びやキャリア教育、自分だけの科目選択が特色の、普通科、専門学科に続く第3の学科の総合学科高校の設置も考えられる。

2 地域の産業界と連携し学びを深める都市部存立専門校

自分の目標や将来の進路実現に向かい、新たな学びである「探究的な学び」による主体的な学びによって自己の可能性を広げるとともに、専門性の学びを担保した専門学科は、将来の諏訪地域の産業界の担い手育成の重要な学びの場として設置していく必要がある。地域の精密機器分野をはじめとする伝統産業の継承はもとより、ICT分野等新たな時代に対応する学びが必要である。

これからの産業構造を考えると、専門性を担保しつつ、他の専門分野についても学ぶことができ学科間での連携が可能な一定規模の総合的な専門学科高校の設置を視野に入れた学びの場の構築が考えられる。

3 地域の学びの拠点としての中山間地存立校

将来の子供たちが自分の目標や将来の進路実現に向かい、新たな学びである「探究的な学び」による主体的な学びによって自己の可能性を広げることができる地域の学びの拠点としての中山間地での学びの場の構築が今後も必要である。

中山間地では小規模校のメリットを活かしたきめ細かい教育活動による多様なニーズへの対応が期待され、地域と連携し地域の魅力や特色を活かした学びが充実した普通科や専門学科、第3の学科の総合学科等の設置が考えられる。

(3) 再編・整備方針

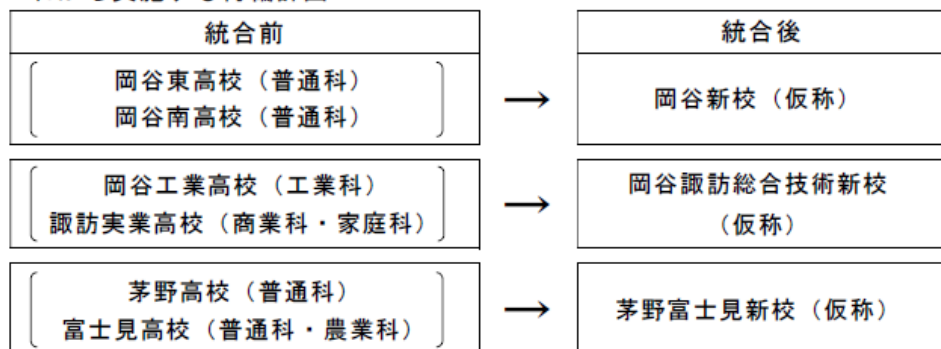
ア 今後の学びのあり方

- 隣接通学区への進学希望も考慮しつつ、地域の子どもを地域で育てる観点を大切にしながら、地域と連携して高校教育の充実を図るとともに、各校の特色を活かし、地域の中学生の期待に応える学びの実現をめざす。
- 各校で「3つの方針」に基づく新たな学びへの転換を推進する。
- 中山間地の高校においては、地域と連携し、各校の立地や地域の特色を活かした「探究的な学び」を充実させることにより、地域活性化につながる「新たな社会を創造する力」を育む教育活動を展開していくことが期待される。

イ 教育環境の整備

- 既に着手している事項も含め、引き続き教育環境の整備を進める。

ウ これから実施する再編計画



岡谷新校（仮称）の学校像としては例えば次のような姿が考えられる

【学 科】 普通科（単位制）

- 【特 長】
- ・生徒の多様な進路希望や興味関心に応じた科目選択や入学年度を越えた学び合いなどを可能にする単位制を導入
 - ・地域の特色あるスポーツや地域活動にも積極的に取り組むことができるカリキュラムの構築
 - ・実践的な英語力を共通のベースとして、地域の課題をグローバルな視点で探究するグローバルな学びを推進
 - ・留学生の積極的受け入れなどによる国際感覚を醸成
 - ・地域との共学共創プラットフォームの構築や地域連携協働室の活用

岡谷諏訪総合技術新校（仮称）の学校像としては例えば次のような姿が考えられる

【学 科】 工業科・商業科・家庭科・新学科（DX等に対応するデジタル系学科）

- 【特 長】
- ・学科の基礎的な専門性を身に付けるとともに、学科を横断した科目を学ぶことなどにより、これからの時代に必要な汎用的・多面的職業能力を育成
 - ・デジタル系新学科を結節点として、工業・商業・家庭の学びを融合させ、地域社会や地域産業の新たな価値を生み出す産業人を育成
 - ・地域に根付いた精密機械産業や伝統産業に新たなイノベーションを興すことができる起業精神を育成
 - ・地域との共学共創プラットフォームの構築や地域連携協働室の活用

茅野富士見新校（仮称）の学校像としては例えば次のような姿が考えられる

【学 科】 普通科・農業科

- 【特 長】
- ・豊富な地域資源を活用した実践的な探究活動により、「生きる力」と「地域を創る力」を育む地域デザイン高校
 - ・年間を通じて、地元自治体や企業等において農業、観光、福祉、看護など地域に根差した産業について学ぶ新たな科目を設置
 - ・EdTech（テクノロジーを用いた学びの支援）を活用した、個々の学習状況に合った個別最適な学びなど、きめ細やかな支援が生徒一人ひとりに行き届く学校
 - ・八ヶ岳山麓地域唯一の県立高校として、幼保小中高が連携した一貫性のある学びを構築
 - ・地域との共学共創プラットフォームの構築や地域連携協働室の活用

茅野富士見新校（仮称）は、活用する校地・校舎や学校像などについて地域に様々な意見があることから、今後設置する「新校再編実施計画懇話会」の意見交換を踏まえ、魅力ある学校像を地域とともに創り上げていく。

【3】信濃毎日新聞10月7日の特集「どうする高校再編 3次計画はいま」より

以下抜粋

「新校の校地や学校像を議論する上で自治体の存在は重要。岡谷市に関しては新市長が決まったこのタイミングで、今後の議論を本格化させることになる。」県教委高校再編推進室は、3次計画で6校を三つの新校に再編することを定めた旧第7通学区（諏訪地域）の展望をそう見通す。

岡谷市では、岡谷東と岡谷南を岡谷新校（仮称）に、岡谷工業と諏訪実業（諏訪市）の職業科2校を岡谷諏訪総合技術新校（仮称）に統合する。このうち岡谷東と岡谷南については、2006年に県教委が統合計画を打ち出したが、同窓会や地元の強い反発を受け、07年に統合を取りやめた経緯がある。

当時と比べて生徒数が減っていることなどから、両校の関係者は今回の統合に一定程度の理解を示している。岡谷東の山本美穂子同窓会長は「生徒にとって充実した学びの場にしてもらいたい」。岡谷南の共田武史同窓会長（県議）は「一定規模の高校を地域に残すことが重要だ。魅力や特色がある高校にしないといけない」とする。

岡谷工と諏訪実の統合は両校の距離が遠く、校舎をどこに置くかがポイントになる。県教委は岡谷工の工業、諏訪実の商業、家庭の既存3科に加え、新校にはDX（デジタル技術による変革）に対応する学科も新設すると計画に明記した。岡谷工の同窓会は「ものづくりの岡谷に新校を置いてほしい」との考えを示し、諏訪実の同窓会は「同窓会としての要望はまとめていないが、県教委の考えを見ていきたい」としている。

諏訪地域では、普通科の茅野（茅野市）と普通科（諏訪郡富士見町）を茅野富士見新校（仮称）に統合することへの異論が富士見の同窓会などで表面化。県教委はその対応で、22年12月に予定した3次計画の確定を翌1月に持ち越した。

【4】岡谷工業高校・諏訪実業高校の学び

岡谷工業高校 ※学科紹介のページから

機械科	工業高校・高専・大学の工学部で、機械科（機械工学科）のない学校はほとんどありません。機械科は、工業の基礎・基本である"ものづくり技術"を学ぶ基幹学科です。機械科の卒業生が、エンジニアとして変化の激しい社会を生きぬくためには、ものづくりをとおして"機械の専門"を理解して、さらに電気・コンピュータなどの関連技術を学ぶことが重要です。産業界のあらゆる分野において、自らの力で活躍できる人材の育成が、基幹学科"機械科"の目標です。
電子機械科	身のまわりには多機能な電気機器や優れた機械があふれています。そのどれもが基礎的・基本的な知識や技術の上に成り立っています。電子機械科では、工業を学ぶ第一歩としての機械・電気・情報の基本的な知識と技能を学びま

	す。そして、それらの知識・技能を活かし連動させてものづくりを考えられることを目指しています。
電気科	生活や産業に欠かすことのできない、電気エネルギー、エレクトロニクス、放送・通信などの電気・電子系の技術は、電気の理論から発展してきました。電気科は、電気の基礎理論からはじまり、電気・電子系の技術全般を実験・実習を通して学習することを目的としています。
環境科学科	化学技術は私たちの豊かな生活を支えています。中学校の理科で学習する化学分野を応用し、基本的な化学工業教育に加え、環境や新エネルギーについての基礎知識・技術を習得するとともに、大学や企業、関係研究機関との連携を図りながら化学的なものづくりを通して地域社会に貢献できる技術者の育成を目指しています。
情報技術科	コンピュータの操作やプログラミングなどのソフトウェア技術、エレクトロニクスや制御などのハードウェア技術、インターネットなどのネットワーク技術、3DCG、動画編集等のマルチメディア技術を習得し、各分野で活躍できる創造性豊かな技術者を養成する。

※平成 23 年(2011 年)4 月に、工業化学科を環境科学科へ、生産システム科を電子機械科へ
学科転換

諏訪実業高校 ※学科紹介のページから

商業科 会計情報科	1 年次には「知識の吸収・理解・確認」をしながら基礎学力定着をはかり、商業に関する科目を幅広く学習します。1 年の後期には地域・会計・情報の中から学ぶ核(コア)を決めて、それぞれの分野の学習を進めます。 2・3 年次には、専門分野の資格取得や、実践的・探究的な活動を通じて深く学んでいきます。 3 年間の学びを通じて、将来のビジネスの場で活躍できるように実践力を身につけます。
服飾科	好き!をかたちに 服飾についての知識や技術を幅広く学び、適正や進路にそって「ファッションテクニカルコース」と「ファッションビジネスコース」に分かれます。 学習を通して感性を磨き、想像力や行動力を身につけ、ファッションをはじめとするさまざまな分野で活躍できる力を身につけます。
定時制	人は、一人一人顔が違うように、それぞれかけがえのない可能性を持っています。それを開花させるために、私たちは汗を流し、たゆまぬ努力をします。君たちも諏訪実業高校定時制でそんな努力をしてみませんか。働きながら学ぶことは確かに大変ですが、4 年後にはきっと大きな可能性がまっています。

※平成 15 年(2003 年)4 月に、会計情報科・服飾科を設置

【5】参考文献・資料・引用

- 1 長野県教育委員会 高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針(案) 2018年(平成30年)3月
- 2 長野県教育委員会 高校改革～夢に挑戦する学び～再編・整備計画【三次】 2023年(令和5年)1月
- 3 信濃毎日新聞 2023年10月7日 どうする高校再編 3次計画はいま 上
- 4 長野県岡谷工業高等学校 ホームページ [長野県岡谷工業高等学校 \(nagano-c.ed.jp\)](http://nagano-c.ed.jp)
- 5 長野県諏訪実業高等学校 ホームページ [長野県諏訪実業高等学校 \(nagano-c.ed.jp\)](http://nagano-c.ed.jp)

金融教育における 外部講師の活用について

第10分科会 家庭科教育
高水・須坂支部 須坂東高校 羽田昌代

生徒の感想（主なもの）

R4年度

- 警戒心を持つという事、誰かに相談することが大事だという事が分かった。
- 資産運用のことが多かったから全体的に難しかった。
- 資産運用のポイント、長期・積立・分散のこともっと知りたいと思った。
- 外部の先生から話を聞けて楽しかった。もっと金融知識を高めたい。

R5年度

- なかなかこのように勉強を学ぶ機会がなくて良かった。
- 今回の授業でもっとお金について社会人になる前に詳しく知りたいと思った。
- 長期・分散・積立を、ネットや他人を信用しないことを学んだ。
- お金のことは難しく手取りの少ない問題や、説明が少なくて手書きの意識がなかった。

授業計画

使用教科書：「図説家庭基礎」（実教出版）

第8章 経済的に自立する

- 日々の収入・支出を把握する
- 社会と家計の変化
- 長期的な経済計画を立てる
 - ① 人生設計と経済計画
 - ② 資産運用→外部講師活用
- 経済のなかの家計

R5年度 講師の方のスライドです

30枚ほどあるので、はやめに流します。

講師・内容・資料

業者：R&C株式会社

	R4年度	R5年度
講師	江原貴史氏（東京）	金子晃太氏（長野）
打合せ回数	3回（オンライン含む）	3～4回
講座回数	4回（50分×4クラス）	4クラス（50分×4クラス）
内容	「プロによる資産形成授業」のタイトルで、18歳成年年齢引き下げの時であったので投資詐欺を切り口にした内容	資産運用・投資の鉄則など
資料	冊子資料2種 ・わたしはダメサレナイ！！借金をさせて強引に契約を結ばせる！若者を狙うクレ・サラ強要商法 ・ヒヨッコと学ぶ～はじめの一步～金融商品を購入する前にどうしても知ってほしい基礎の基礎（金融知力普及協会）	講師準備のパワーポイント 「社会のルール お金について知ろう！」（この後スライドを紹介します）



自己紹介

金子 晃太

- 平成生まれの31歳のお兄さん!! ※決しておじさんではない
- 仕事は保険代理店というお客様の万が一や一生に寄り添う仕事をしています。
- 大学までスポーツ推薦で進学しているので勉強は・・・
- 趣味は空手を長野市の道場で保育園児～社会人を対象に教えています。
- 今日はみんな大好き? お金について知ってもらうために来ました。

ディズニーランドの1日入場券の変化

年	1デーパスポート	備考	年	1デーパスポート	備考
1983			2002		
1984			2003		
1985			2004		
1986			2005		
1987			2006		
1988			2007		
1989			2008		
1990			2009		
1991			2010		
1992			2011		
1993			2012		
1994			2013		
1995			2014		
1996			2015		
1997			2016		
1998			2017		
1999			2018		
2000			2019		
2001			2020		

金子初めて彼女とディズニーに行く

2023年の現在
9400円に!!



1, 身近な金融問題

高校生の平均お小遣いは?

今の平均お小遣い

月/約6,000円

40年前平均お小遣い

月/約6,000円

ここはどこでしょう?

みんな大好き?
東京ディズニーランド



物価 (入場料) が上がっている (インフレーション)

Q1、お金の価値は?

- ①上がっている ②変わらない ③下がっている



こんなものまで!?

Q2

銀行の**メイン**の仕事は以下のうちどれでしょう?

- ① お客さんのお金を**預かって**必要な時に手数料をもらってお返りする仕事
- ② お客さんにお金を**貸してもらい**そのお金を増

16年間でこんなにも変わっている!!

2006
30個入
330g



2023年
19個入
190g

同一価格の税抜き300円

積立金額と運用成果



日本銀行はこれからも
物価年2%上昇を目標にしてい

る!!
銀行の金利は年/0.001%
みんなの両親が生まれた頃は
銀行に預けているだけで**年利6%**はあった



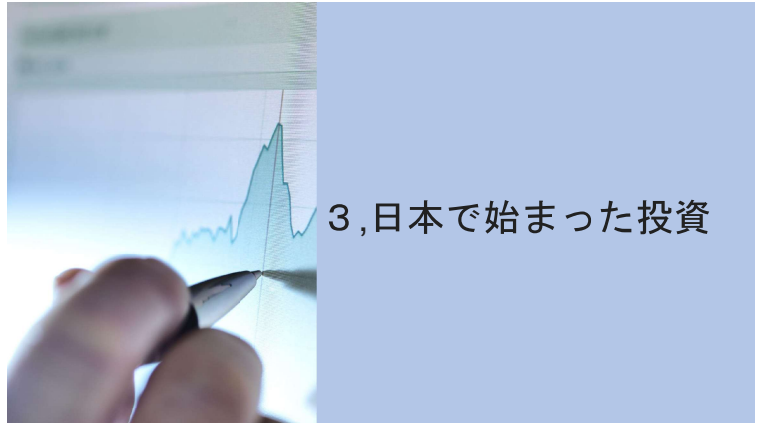
2,世界の金融と日本の金融

- ・日本は昨年からの高校2年生から家庭科で金融の授業が始まった

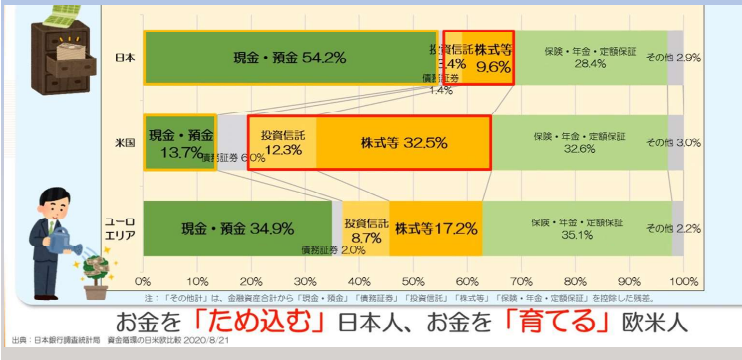
※ただし教科書たった数ページ分

...

- ・アメリカやイギリスは3歳から金融やお金について大人になった将来を見据えた学習の機会が多い



世界のお金の貯め方



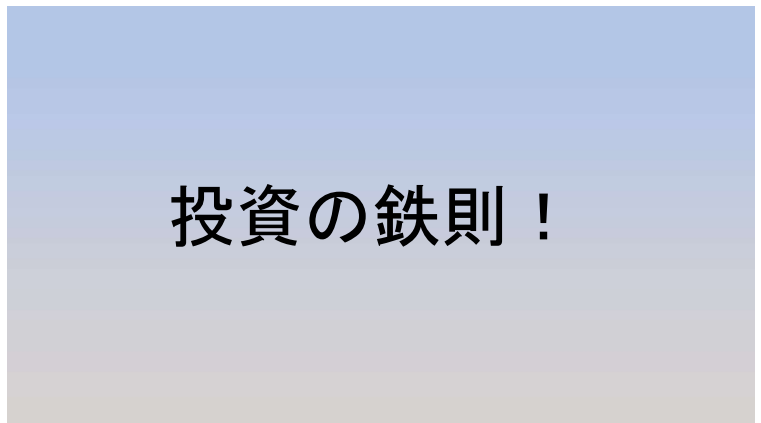
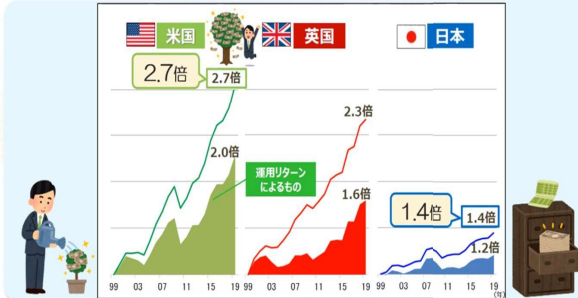
日本の投資信託

	NISA*1	つみたてNISA	iDeCo	変額保険(有期型)
目的	短中期の資産運用	中長期の積立投資	長期運用による私的年金	保障を備えた長期の資産形成
投資限度額(年間)	120万円	40万円	14.4万円(会社員等)*3 81.6万円(自営業者)*3	取扱規定の範囲内
投資期間	最長5年間*(非課税期間)	最長20年間(非課税期間)	60歳まで	取扱規定の範囲内
投資対象商品	幅広い商品から選ぶ株式、投資信託など	国が定めた基準を満たす投資信託	定期預金、保険、投資信託など	投資信託など
税制メリット	拠出時	×	○ (金融所得控除)	○ (生命保険料控除)
	運用時	○ (非課税)	○ (非課税)	○ (非課税)
	受取時	○ (非課税/最長5年間*)	○ (非課税/最長20年間)	○ (年金受取:公的年金等控除) ○ (一時金受取:退職所得控除)
資金の引出し	○	○	×	○ (取扱規定の範囲内)

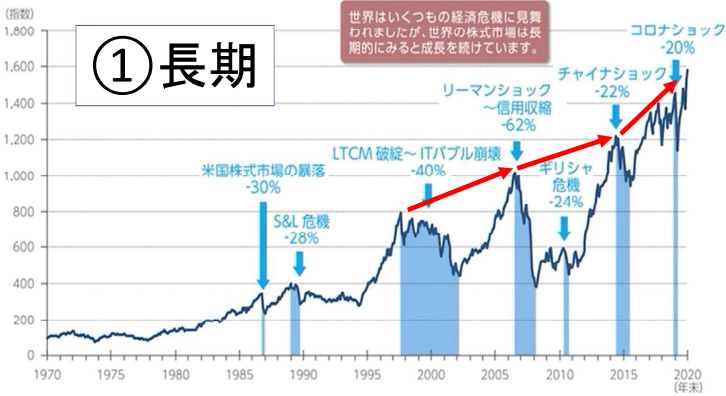
出典: 金融庁のホームページ等を基に作成
 *1: 2024年より新-NISAに移行し、NISAのみでNISAは選択投資。
 *2: ロールオーバーを使用した場合最長10年間
 *3: 国民年金基金給付金等給付として受取る。*4: 節税効果は受取時の場合一律金融所得控除
 当データは2020年8月現在の税制・法令等に基づいており、今後の税制・法令改正等により内容が変更になる場合があります。個別具体的な税務の取扱いについては、専門税理士または税務顧問等に相談ください。

おなじ20年間を過ごしたら?

米国・英国・日本の金融資産の推移



世界の株式市場(1970年12月末~2020年12月末まで)^{*3}

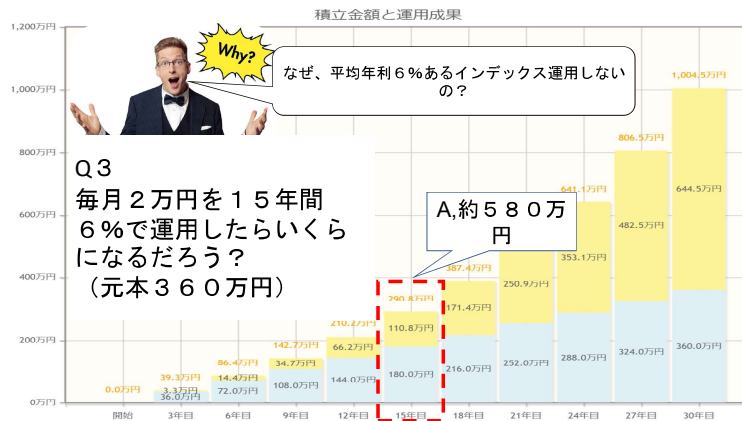


①長期

年利率	お金を2倍にするのに必要な期間
0.01 %	7,200 年
0.05 %	1,440 年
0.10 %	720 年
0.50 %	144 年
1.00 %	72 年
2.00 %	36 年
3.00 %	24 年
4.00 %	18 年

Q4
今の銀行貯金で2倍に増やすには何年預けたらなるか？
A, 72,000年

Q5
40年前の「6%」の金利で銀行に預けていたら何年で2倍になったか？
A, 12年

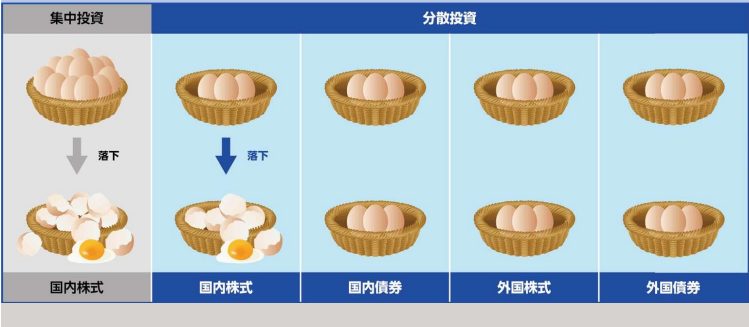


③積み立て

ドルコスト平均法 (Dollar Cost Averaging)

Q7
①1月に1個100円のリンゴを15個まとめて買った人と
②3か月(1月、2月、3月)に分けて毎月500円分買う
③4月に1個100円で売却した時どっちが得をするでしょう?
値動きは上のように変動したとする。

②分散



- ④ ネットや他人を信用しない
- 投資の責任は誰も取ってくれません
 - 大切なお金は自分で勉強し決める！
 - わからないときは信頼のおける人に相談する

※ 芸能人のTKO木本さんのニュース

まとめ

- 今を楽しむことはもちろん大切！
でも未来の自分に投資（体験や経験）することを忘れないで...
- 先生や両親が生きてきた時代と
君たちの生きていく時代は別物！
人の言いなりになるのではなく自分で考え調べ行動して！
- 学生時代勉強してきていない僕が社会人をやれている
まだまだ君たちならどんな夢でも十分かなえられる！

鉄則のおさらい

- ① 長期
- ② 分散
- ③ 積み立て
- ④ ネットや他人を信用しない

ご清聴ありがとうございました。



4,まとめ



時間が余ったので
～質問タイム～

終わり

第10分科会 家庭科教育
高水・須坂支部 須坂東高校 羽田昌代

総合的な探求の時間における個に応じた課題設定の方法と ICT 活用の成果と課題

1. 本校の様子

本校は通級指導教室のある定時制・多部単位制の高校である。午前部は3修生（3年間で卒業）、午後部は3修生と4修生（4年間で卒業）がある。午前部は、2年次より系列（文系・理系・環境緑化・情報ビジネス・ライフデザイン）を選択する。

ASD など発達障がいのある生徒、診断はされていないが発達障がいや学習障がいの可能性の高い生徒、大学進学を目指す学習意欲の高い生徒など多様な生徒たちがいる。

2. 授業実践

総合的な探求の時間 3年次生 2単位

生徒 ライフデザイン・理系・環境緑化系列・1組（午後部） 50名

教員 6名

テーマ『地域や東御市についての学習を通し、地域の魅力を発信し、課題を解決する』

月	学習の流れ	ICT の活用
4月	①地域について知る	※毎時学習予定を電子黒板・ロイロに配信 調べ学習
5～6月	②地域の魅力について考える	発表・共有(ロイロノート)
7月	③地域の魅力について発信する	ポスター作製(ロイロノート) 文化祭で展示
8月	④魅力を体験する おやき作り(6月)・海野宿散策 (7月)・ぶどうのお話(9月)・くる み収穫体験(10月)・そば打ち(11 月)	ポスターセッション(ロイロノート) 写真の共有・感想提出(ロイロノート)
9月	⑤テーマ設定(個人・グループ) 「マイプロジェクト」 「東御の魅力」	発表(Google スライド) 調べ学習・実習
1月	⑥学習発表会で発表	発表(Google スライド)

①個に応じた課題設定の方法について

「生徒が自ら課題を設定し、課題を自分ごととしてとらえ探究活動を行う」のが目指したい生徒の姿であるが、「自ら課題を見つけることが困難」が本校の多くの生徒の実態である。(興味のある範囲がとても狭く、興味のないことには関心を示さない。体験がないことは想像しにくくイメージで

きないという特性。)そこで、地域に関心・興味を持ち課題の設定へとつなげるためには、得た情報(地域について学習した(調べた)内容)を体感することが重要なプロセスであると考え、おやき作り・海野宿散策・くすみ収穫体験・ぶどうの話・そば打ちなどの体験活動を取り入れた。体験活動では生き生きと活動する多くの生徒の姿が見られ、改めて知識(情報)と実物が結びつく体験が重要であると感じた。

後期、個別の探求テーマを設定するにあたり、自分の興味・関心について調べたい・深めたい生徒は「マイテーマ」、自分の興味・関心から課題が見つけれない生徒は体験活動の中で興味を持ったことについて調べるまたは体験活動をまとめる「地域の魅力」をテーマとすることにした。どちらも「じぶんごと」としてとらえた探求活動がスタートできたと思われる。

②ICT 活用の成果と課題

〈成果〉毎時、授業の導入ではロイロノートを使い、「本日の予定」を配信・電子黒板に掲示する。掲示するにより、授業内容が明確化され、生徒自身がやるべきことにスムーズに取り組むことができる。自閉症スペクトラム、ADHD等を抱える生徒の多くは、教師が言葉で伝えた(話す)内容がイメージできない、または頭に残らないので、何をすればよいかわからず授業への取り組みが良くなかったり、活動が停滞してしまう。文字で伝えることは視覚支援であり、そういった生徒への合理的な配慮になる。また、書字障害等のLDを抱える生徒にとってもタイピングを活用することで、授業への活動停滞を防ぐことができる。逆の場合もあるので、可能であれば紙ベースまたはタブレットの2通りの方法が用意できると良い。

多様な生徒が同じ教室で学んでいることへの合理的配慮として、ICTの効果的な活用方法について学び、進めていく必要があると感じる。

〈課題〉忘れ物が多い、タブレットを持ち帰る習慣がない生徒がおり、学校で充電ができる設備を整える等、タブレット忘れ・充電忘れを防ぐ支援が必要なのではないかを感じる。

3. ICT の活用状況

「モノグサ」「ロイロノート」「Googleclassroom」を活用している。「モノグサ」は今年度より導入した学習支援アプリで、難易度別の国語と数学の問題が毎朝の5分間学習時に配信される。学習内容の定着を狙う反復学習スタイル。教員が作成した問題も配信もできるので、定期考査対策に活用する教科もある。

上小支部
上田千曲高校
櫻井幸子

「家庭科と憲法」アンケートによる主体的な学び

家庭科（家庭基礎・家庭総合）では、多くの高校生が新学期 4～5 月の期間に、「家族に関する法律」を学んでいる。

ある教科書では、単元の目標として、次の 3 つが挙げられている。

- ・ 家族に関する法律の理念や背景について理解しよう
- ・ 現民法、旧民法の違いや主たる改正点について理解しよう
- ・ 法律は自分たち一人ひとりの認識にもとづく社会の要請を受けて検討、改正されていくことを理解しよう

日本国憲法 24 条には、家族に関する法律の理念として、「個人の尊厳と両性の本質的平等に立脚して、制定されなければならない」とあり、現行の民法でも、個人の尊厳と本質的平等が重視されていることを学ぶ。私は例年、「人の一生と法律」という資料を、ひとり一文ずつ音読する時間を取っている。『ライフステージにかかわる法律』として、憲法 13, 14, 24 条とそれにもとづく民法、憲法 25 条の他、児童福祉法、男女雇用機会均等法、労働基準法などが列記されている。

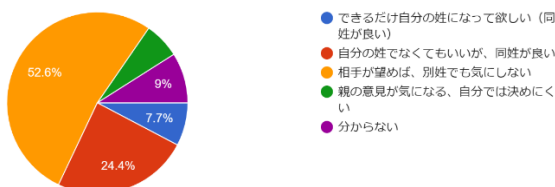
教科書には、資料として、旧民法（明治民法）と現行民法の比較の表があり、旧民法の「家」制度に基づく理念によって、個人の権利が制限されていた時代を想像する。戸主の権限が強く、原則男性であったため親権や相続、財産管理などの権利が女性にはなかったこと、夫婦は同姓（夫の姓）、など、法律での「男尊女卑」、女性にとっての家父長制と夫権の二重の支配の実情を想像する。

さらに、旧民法の「家」制度の特徴や「男尊女卑」の状況が、現在の自分の身の周りに残っているものがあるかどうか考えてみる。「父兄」は消えつつあるが、「入籍」は「結婚＝入籍」という誤解のもとで使われている。

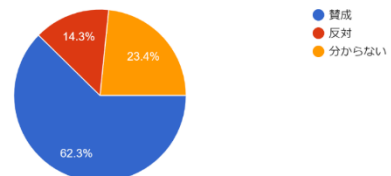
1947 年日本国憲法施行に伴う民法の改正により、夫婦間の平等、両性の合意のみに基づく結婚、父母の共同親権、均等相続など「家族に関する民法」が全面的に改正となり、「家」制度は廃止された。家庭科では、さらに「時代に応じた民法改正」として、2013 年改正の「非嫡出子の相続分差別の撤廃」、2016 年改正の「女性の再婚禁止期間の短縮」、2018 年改正の「女性の婚姻最低年齢の 18 歳への引き上げ」などを扱っている。

「選択的夫婦別姓制度」については今後の動きが注目されるが、内閣府の世論調査のデータと比較して、今年度担当 2 クラスの生徒（女子は 1 名）にアンケートを実施したところ、図のようになった。

あなた自身の人生で、将来結婚するとして夫婦は必ず同姓が良いか、別姓でも良いか？
78 件の回答



法律として、選択的夫婦別姓に賛成か・反対か？
77 件の回答



2015年のデータによると、夫の姓を選択する夫婦は96.0%。

「結婚したら家事を手伝う（男子）」「料理が上手な人女性と結婚したい」「子どもは母親が育てたほうがうまく育つから任せる」などの自由記述もあり、高校生段階で「性別役割分業」の刷り込みもみられた。高校での家庭科の授業を通して、自らに刷り込まれたジェンダーバイアス意識を払拭し、次世代に「家」制度的な思考、性別役割分業の刷り込みをしない人間、個人の尊厳と両性の本質的平等を實踐できる人間に成長して欲しいと再確認し、以降の授業に臨む。

小世帯化が進む現代では、高校生にとっては、自分が生まれ育った家族（生育家族）だけが、自分が経験している家族の生活スタイルである。DVや虐待、ネグレクトの被害にあっている自分、ヤングケアラーとしての自分に気づいていない場合もある。よりよい人生を目指すライフプランを持ってぬまに若年出産に至る生徒もみえてきた。

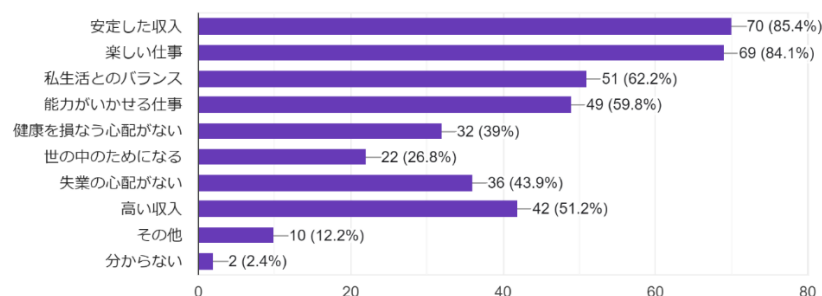
高校生までは実感していなかったジェンダーバイアスを、就職後、結婚後に経験し感じることもあるだろう。家庭科での衣食住の実習を含めた学び、子どもや高齢者とのかかわり、主体的な消費行動、経済的自立について知り、考え、憲法25条「健康で文化的な最低限度の生活」の内容を追求し、知識や技能を身につけて、男も女も性にとらわれない自分らしい生活を営む力を育てたい。

子どもであっても、女性であっても、障害を持っていても、どんな弱い立場にいる「個人」であっても、憲法で守られている尊厳を持った「個人」であるということを十分に理解し、自分の望む人生を切り開いて欲しいと願っている。

《教科書の資料と同じ質問でのアンケート集計》

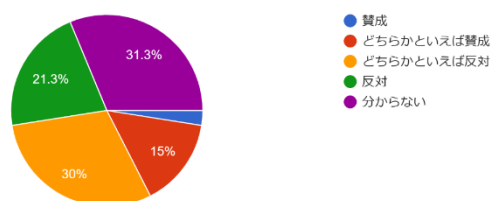
どのような仕事が理想的だと思いますか？複数回答可

82件の回答



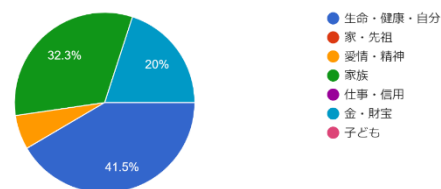
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方をどう思う？

80件の回答



あなたにとって一番大切なものは何ですか？

65件の回答



支部名 安曇支部
 職場名 大町岳陽高校
 氏名 太田友子

調理実習にタブレット（スマホ）を使った実践

1 テーマ設定の理由

「フードデザイン」の学習内容に「調理の基本」があり、その中で今回は「包丁の扱い方」に焦点を当てた教材開発を行うこととした。正しい姿勢、正しい持ち方で包丁を扱うことは、その後の技術向上と安全確保につながる。また、調理技術を習得するための導入として、「調理実習においてタブレットを活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る」ことを目標として本研究を進めることと。

2 研究の内容

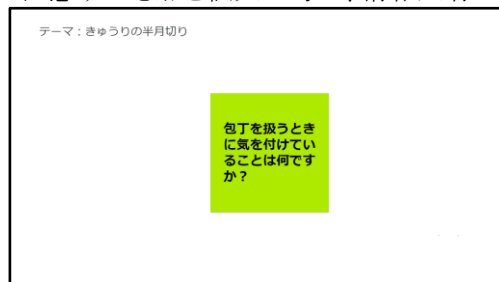
(1) 教材の作成

フードデザインにおける単元は「調理の基本」とする。従来の授業では、2年次の家庭総合で、包丁の扱い方についてDVDでの動画見本やテキストを参考にしてイメージ作りを行う学習をしていたが、自らの姿を具体的・客観的に確認する機会は乏しかった。そこで、ICTを活用した授業改善を行うにあたり、生徒自ら主体的・協働的に学ぶなかで、包丁の扱い方が向上していく仕組みづくりを工夫することとした。

教材はGoogle Classroomを用いて作成した。調理実習の事前学習から振り返りまでが含まれており、その実際は次の通りである。

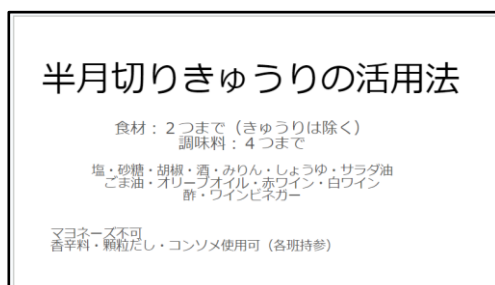
ア) 導入①(Jamboard)

包丁の扱い方について注意すべき点を個人で考え、情報共有し、全体の学びとする。



イ) 導入②(Google Slides・Google Forms)

教材として活用した半月切りきゅうりをどのように調理したいかを考え、まとめる。
 調理実習で何を作りたいかアンケートを取る



ウ) 展開(動画視聴)

きゅうりを半月切りする際の正しい姿勢を動画で学ぶ。



エ) 実習(カメラ撮影・Google Slides)

包丁を使っている場面を撮影し、見本の写真と比較し、気づきをもつ。



オ) まとめ(ドキュメント、Google Forms)

学びの振り返りとして、個人の考えをアウトプットする。

(2) 授業展開

学習事項	生徒の学習活動・指導のポイント	活用アプリ他
<p>☆導入:実習のための事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包丁を使うときに気を付けること ・きゅうりの半月切りを生かした調理を考える (条件あり:加える食材2品まで、調味料4品まで) ・包丁の使い方 	<p>生徒の学習活動・指導のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包丁使用時の注意点を書き出し、クラスメイトと共有する(個別、協働) ・各自調べ学習して紙にまとめる(個別) ↓ ・班ごとに実習内容を考え、Google Slides にまとめる(協働) ↓ ・プレゼンテーション(協働) ↓ ・一人1票投票し、実習内容を決定する ・動画で確認 	<p>活用アプリ他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Jamboard ・インターネット他 ・Google Slides ・Google Forms ・動画教材 You Tube
<p>☆実習当日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包丁の使い方(復習) ・きゅうりの半月切り 静止画、動画撮影 ・調理、試食 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに撮影しあい、助言もしあう 自分の画像を確認し、より良い姿勢となるよう工夫する (個別、協働) 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットのカメラ
<p>☆実習後のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成 ・振り返りシート (自己評価) 	<p>Google Classroom から、レポートと振り返りシートを提出する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Google ドキュメント ・Google Forms

(3)観点別評価

時間	学習活動	評価基準	知	思	態
1	包丁を使うときに気を付けることを考える。意見を書き込む。	包丁を使うときに気を付けることを考え、意見を書き込むことができる。		○	
	タブレットできゅうりのレシピを検索し、班で作って見たい料理のレシピを書き込む。	タブレットを使い、きゅうりの活用について調べ、班で意見を述べたり、レシピを書き込んだりすることができる。			○
2	調理実習	きゅうりを切る包丁の持ち方や手つき、姿勢が身についており、すばやく、均等の厚さで切れる。	○		
3	実習の振り返り	自分の姿勢の写真を見て振り返り、調理の完成品の写真を添付し、まとめができる。		○	○

知:知識・技術、思:思考・判断・表現、態:主体的に取り組む態度

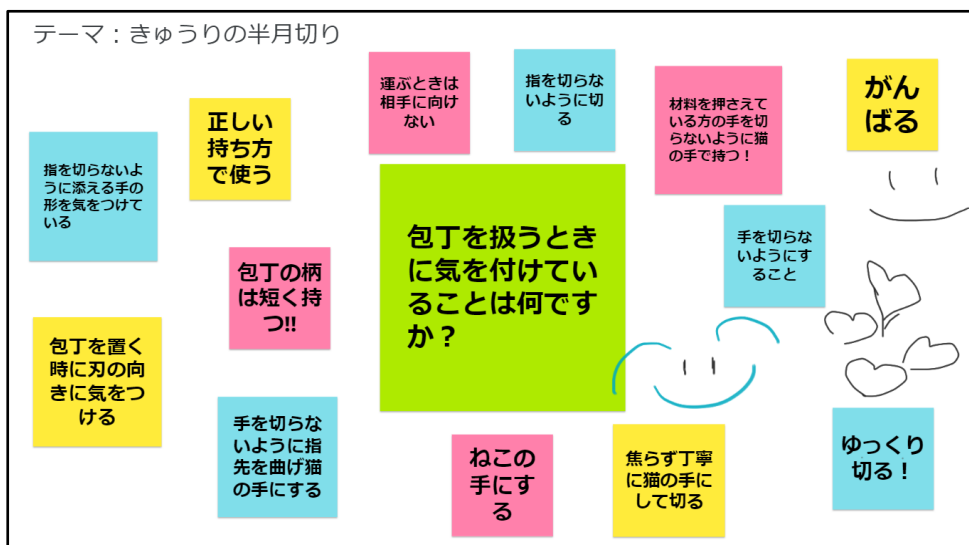
(4) 授業実践

ア 対象生徒

3学年フードデザイン受講生徒 今年度は26人、30人の2講座

イ Jamboard を活用したグループ内の意見集約

「1. きゅうりの半月切り 包丁を使うときに気をつけることは何ですか」という問いについて、調理実習グループごとのシートへ入力し意見を集約する。その後、他のグループの意見を見て、さらに意見集約を行う。その結果、講座内から挙げられた様々な「包丁を使うときの注意事項」を知ることができる。



ウ グループごとの調べ学習(インターネット検索)

「2. 半月切りきゅうりの活用法」についてシート1枚目の条件(食材数、調味料数、使用可能な調味料、使用不可能な調味料)を確認した上で、各グループごとに調べ学習を行い、相談しながらのシートへまとめる。その後、グループ代表者が全体の発表を行う。他のグループの発表を見聞きする中で様々な「半月きゅうりの活用法」があることに気づく。

6班

ささみときゅうりの春雨サラダ

【材料】

きゅうり、春雨、鶏ささみ、しょうゆ、酢、ごま油、砂糖、白いりごま、鶏ガラスープの素、お湯、料理酒

【作り方】

- 1.きゅうりを切ります♪
- 2.耐熱ボウルに鶏ささみを入れ、料理酒をかけてラップをし、600Wの電子レンジで2分30秒程加熱し、中まで火を通します♪
- 3.お湯を沸騰させた鍋に春雨を入れ、パッケージの表記通りゆで、流水で洗い、水気を切ります。
- 4.ボウルに1、粗熱が取れた2をほぐし入れ、3、調味料を加え和えます♪
- 5.器に盛り付けます♪完成です♪美味しいです♪

7班

いかときゅうりの旨辛和え

材料:きゅうり、いか(冷凍)、塩、砂糖、コチュジャン、白いりごま
ごま油、ニンニクすりおろし、酢、鶏ガラスープの素

作り方:

- 1.きゅうりは斜め切りにしてポリ袋に入れ、A 塩・砂糖各小さじ1を馴染ませ10分置き、更に揉んでからギュッと絞って水気を絞る。
- 2.イカ(冷凍)は解凍後、食べやすく切り、塩少々(分量外)入れたお湯でサッと茹でたらザルに上げて水気を切る。
- 3.コチュジャン大さじ1強、白いりごま・砂糖・ごま油各大さじ1、にんにくすりおろし・酢各小さじ2、鶏がらスープの素小さじ1をませ、イカ、きゅうりを加えて和えたら出来上がり！



エ 「半月切りきゅうりの活用法」投票

各グループの「半月きゅうりの活用法」の中から、各自が実践してみたいもの1つを選び、投票する。投票結果をその場で、確認する。

半月切りを使用した調理

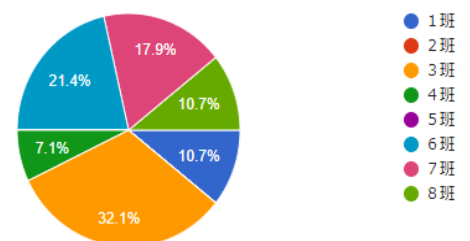
フォームの説明

何班の料理をつくってみたいですか？

1. 1班
2. 2班
3. 3班

何班の料理をつくってみたいですか？

28 件の回答



オ「YouTube 動画を見て正しい姿勢を確認する」

「食物調理検定 4級実技試験」 YouTube 動画(4分)を各自、または、グループごと視聴し、正しい姿勢や包丁の持ち方などを学ぶ。

カ 写真を撮り「正しい姿勢」の比較をする

「食物調理検定 4級実技試験」の基本姿勢写真を意識して、グループ内で「基本姿勢写真」を撮り、同じシートへ貼り付け、正しい姿勢となっているか、どこを改善したらよいか確認する。必要に応じて再度写真を撮るとり、正しい姿勢に近づけた写真を貼り付ける。他のグループの写真も見比べ参考にする。



キ まとめ

- (1)ドキュメントの「振り返りシート」へ各自入力する。
- (2)フォームで一人一台端末活用するデジタル教材のまとめと、自己評価を行う。

1 きゅうりを切る姿勢について
お手本の写真と比べどうでしたか？

1 2 3 4 5

あまり良い姿勢ではなかった とても良い姿勢だった

2 きゅうりを切る姿勢を改善できましたか？

1 2 3 4 5

改善できなかった 大変よく改善できた

3 包丁の持ち方は、正しくできましたか？

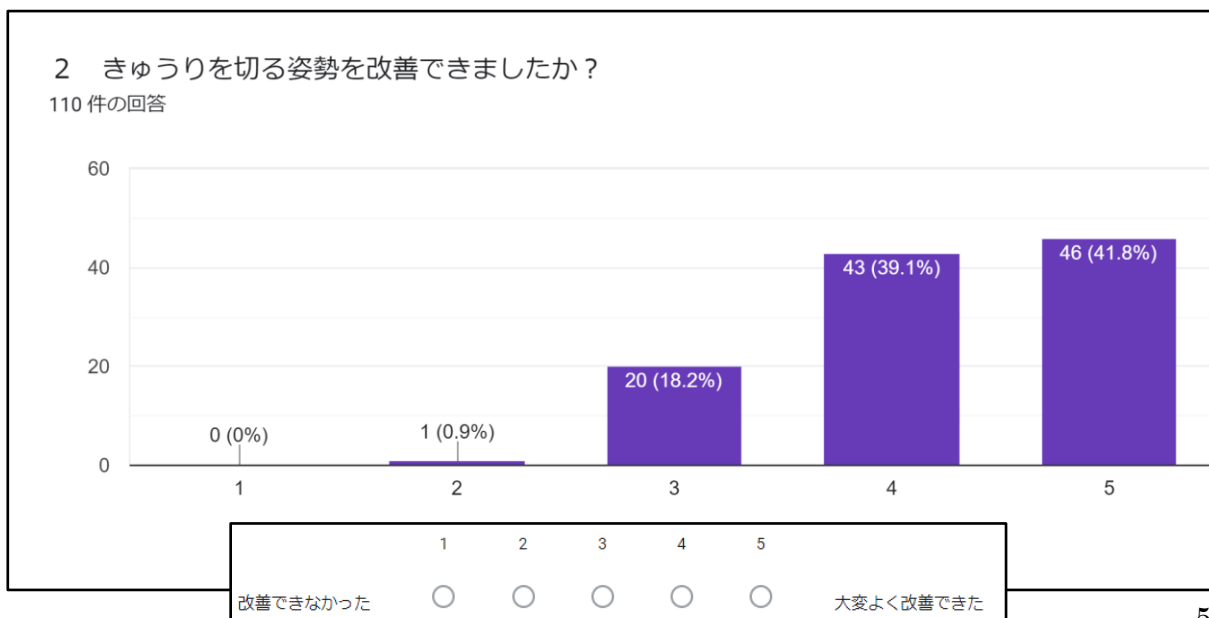
1 2 3 4 5

正しくできなかった 正しくできた

4 きゅうりを押さえる手の形や位置は、正しくできましたか？

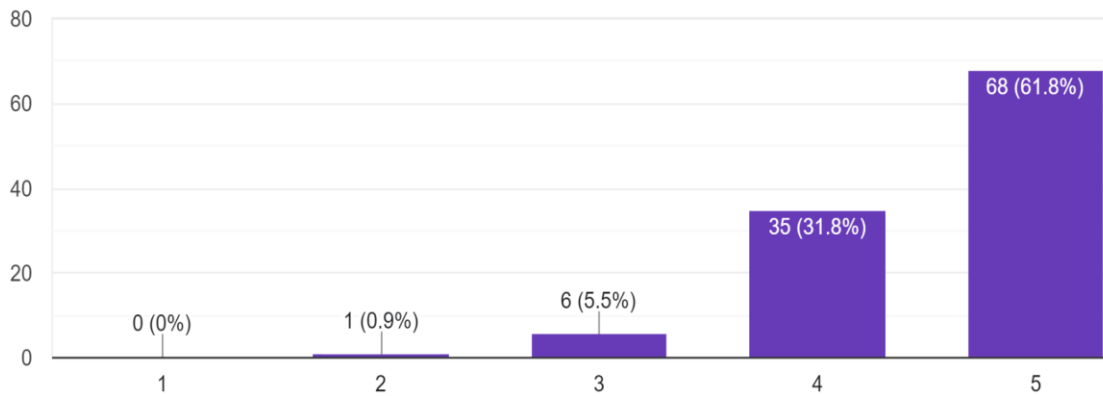
1 2 3 4 5

正しくできなかった 正しくできた



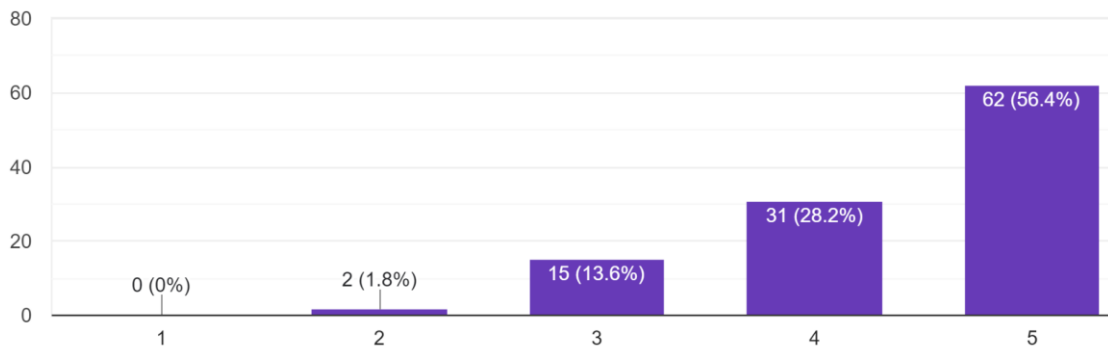
3 包丁の持ち方は、正しくできましたか？

110件の回答



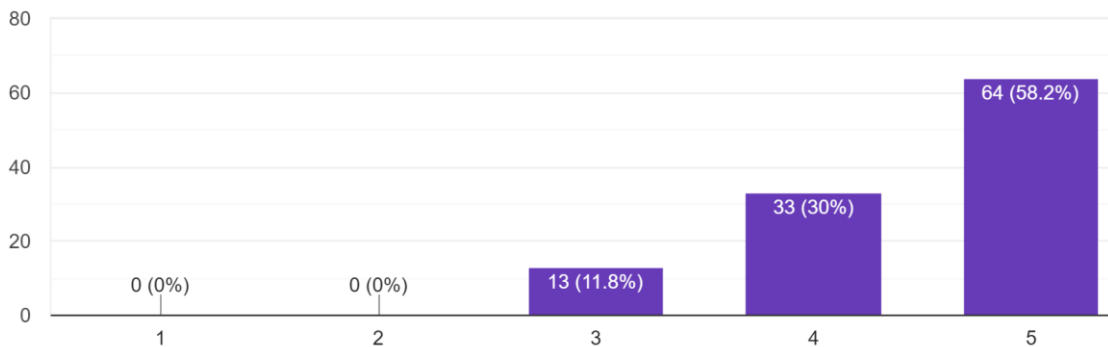
4 きゅうりを押さえる手の形や位置は、正しくできましたか？

110件の回答



5 正しい包丁の持ち方やきゅうりを押さえる手の形・位置を意識できるようになりましたか？

110件の回答



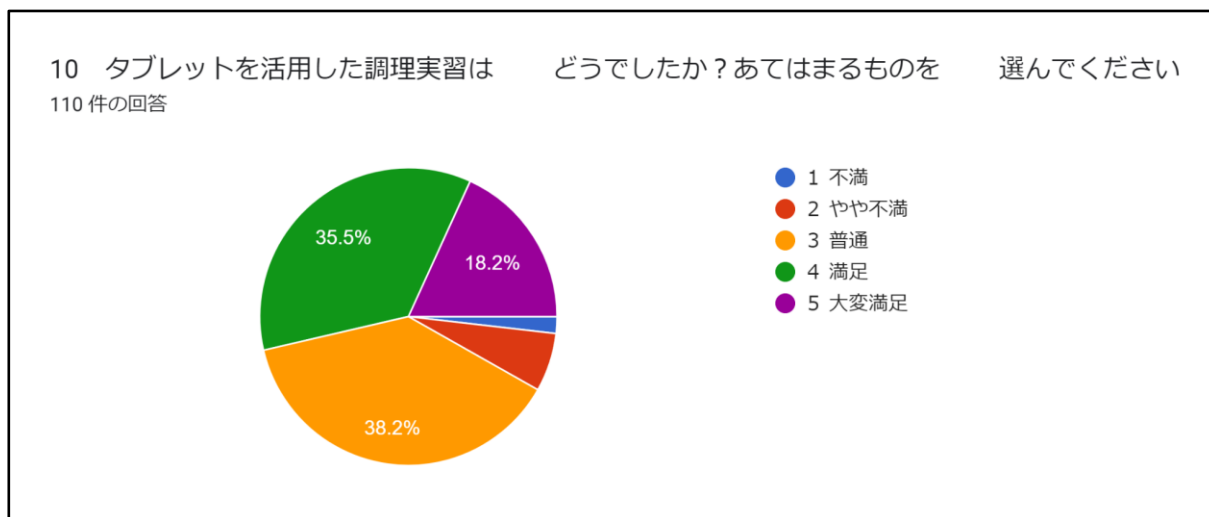
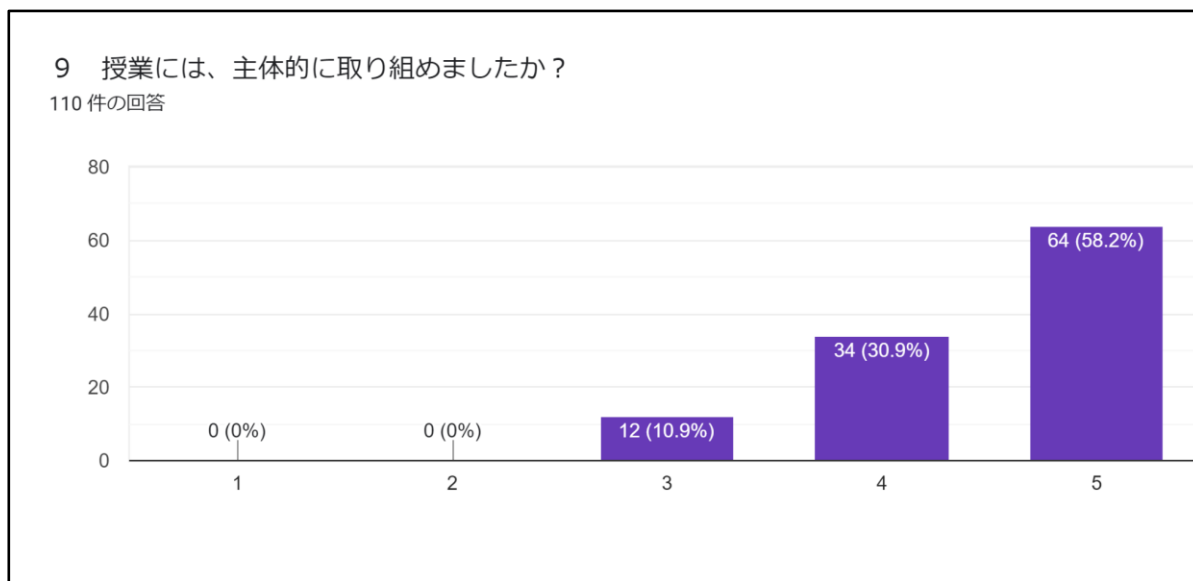
1 できなかった～ 5 たいへんよくできた の 5段階

6 半月きゅうりの活用法で、料理を考案しましたが、工夫した点など記入しましょう。

- ・沢山きゅうりを消費しやすいサラダにした。
- ・みんなが美味しく食べれそうなもの考えた。
- ・きゅうりと合う食材を選んで、作りやすい和え物がいいと思った。
- ・きゅうりをより美味しく食べれるものにしたかった。
- ・半月きゅうりが使われているレシピをみんなで調べて、簡単で美味しそうなレシピをできるだけ選んで作った。
- ・和え物とか、素材の特徴が残るようにした。
- ・美味しく、食べやすくすることに気をつけました。
- ・きゅうりの独特な匂いがあまり目立たないようにしました。

7 実際に調理実習で、きゅうりを使った料理を行った感想は、どうでしたか？

- ・できるだけ、コストを抑え、身近な食材で手に入りやすい食材を使った。
- ・自分で作ったので美味しかった。変になってしまったものも多かったけど美味しく調理できた。
- ・自分で作ったものなので美味しかった。食べるときにきゅうりの幅に違いがあることに気づいたので、一定の幅で切れるようになりたい。
- ・班の人と頑張ったのでとても美味しかった。
- ・手軽にできたので、家でも挑戦してみたいと思った。
- ・すべての食材がとても合っていて、味付けも美味しかった。
- ・おいしかった！！ いっぱい食べた。



11 10「タブレットを活用した調理実習は、どうでしたか？」の回答について、具体的にその理由を記入してください。

- ・書くのが大変だから、とてもスムーズに出来て良かったです。
 - ・わかりやすかった。
 - ・色んな知識を得られる。
 - ・楽しく出来たから。
 - ・簡単でいい。
 - ・手本が動画として残っていて反復しやすかった。
 - ・記録に残せていいと思う。
 - ・タブレットを使うことで、切り方の動画を見ることが出来て、より実践的に出来たと思う。
 - ・タブレットで写真を撮って自分の姿勢で改善できる場所を見れるから。
 - ・紙でやったら濡れる可能性もあるので、タブレットの方が楽である。
 - ・タブレットがあったら、色々便利だと思った。
 - ・他の人の意見も頭に入れられる。
 - ・タブレットを使うことで効率良くできたから。
 - ・調理実習がやりやすくなった。
 - ・実際に自分の姿勢を知ることができるし、自分で分からないところがあったら、すぐ調べられるので満足している。
 - ・動画や写真を見直しできるし、友達と共同で作業ができるから。
 - ・動画や写真を見て、自分のことを客観的に見ることができたので良かった。
 - ・紙で書くよりもまとめやすく、やりやすい。記録などをまとめることが出来、どのように改善していけばよいか考えることができたから。
 - ・全体の意見などが話すよりも的確に伝わった。
 - ・自分たちで調べて、考えて作るのは初めてで面白かった。
-
- ・タブレットを上手く使えない人もいるから、そういう人のことも考えてほしい。
 - ・タブレットは便利だが、調理台の上に置くとスペースをとり、大きすぎる。
 - ・めんどくさい。
 - ・タブレットを使っていない。
 - ・あってもなくても変わらないから。
 - ・写真を張る作業が大変だったから普通。
 - ・写真を撮るのも、入力するのも携帯の方が便利だから。

12 全体を通して学んだこと・気づいたこと 感想などを記入してください。

- ・包丁を使う際は、姿勢や持ち方に気をつけることが大切だと思った。
- ・計画を立てて作るのが楽しかった。
- ・きゅうりっていう素材だけでも、こんな料理の幅があったことにびっくりした。
- ・普段姿勢まで、しっかりと意識しないけれど、ちゃんと足を開いたり、背筋を伸ばしたり正しい方法が知れたので日常でも意識した。
- ・切る姿勢や包丁の持ち方で、切りやすさがすごく変わった。これから料理する時も、意識してやりたい。
- ・簡単に美味しくできる料理だったので楽しくできた。協力して作る楽しさを改めて実感した。
- ・将来的に必要なものであるもので、しっかりと心構えでやっていきたいし、学んでいきたい。
- ・一人暮らしした時に活用できるようなことが沢山あって良かった。
- ・初めて作った料理でも、みんなと協力して完成することが出来たことがとても嬉しかった。片付けも、作業工程も班の人と協力して最後まで出来た。料理も美味しく、また作ってみたいと思った。
- ・実際に調理をすることによって以前より調理の技術を身につけたり、調理の楽しさを知ることができた。
- ・料理ムズイ。
- ・普通に紙にしてほしい。

4 研究成果と課題

本研究では、「調理実習において ICT を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る」ことを目標としてきた。調理実習を通して学ぶ内容は多岐にわたる。その中で今回は「包丁の扱い方」に焦点を当てた教材開発を行った。

正しい姿勢、正しい持ち方で包丁を扱うことは、その後の技術向上と安全確保につながるが、Jamboard で意見を求めたところ、「指を切らないように」「猫の手」「包丁の持ち方」など、手元に集中して意見が出て、姿勢に関する意見はほとんどなかった。その次に動画を見せながら、姿勢について意識づけをし、調理実習時間に動画を再確認したり、写真を撮ることにより、その場で自分の姿勢と手本の姿勢の違いに気づき、自らの姿勢改善につながった。これが、きゅうりの切れた枚数の増加につながったと考える。

また、タブレットを使って、きゅうりの活用法(料理)を検索したことで、「こんなに料理の幅があったことにびっくりした」とのように、インターネットで調べることで、書籍で調べたり自分の経験で考えたりするよりも、レシピ検索しやすかった。また、レシピを書きとるにも、スライドにしたことで、プリントに手書きで書くより短時間で効率よく書け、発表するにも電子黒板やタブレット内で他の班のまとめが見やすく、短時間で様々な料理を知ることができた。

したがって、調理技術を習得するための導入として専門学科、普通科ともに扱える内容であり、効果的であったと考える。

高校の調理実習では、生徒40人を1人の教員で担当することが原則であるが、生活力の低下に加え、特性のある生徒や食物アレルギーの配慮が必要な生徒が年々増加しており、40人の大人数の実習は困難さが増している。今回のタブレットを活用した調理実習について、「調理実習がやりやすくなった」「動画や写真を見て自分のことを客観的に見ることで良かった」「分からないことはすぐに、調べられている」「友達や全体の意見が視覚的に見ることで的確に伝わりやすい」といった生徒の感想から、家庭科の授業や実習において効果的に ICT 教材を取り入れていくことが問題解決の1つの方法になり得ると考える。

今回の課題としては、Jamboard の不適切な書き込みや、実習中にタブレットを汚さないようにどこに置くか、まとめのドキュメントに写真が貼り付けられなかった、などがあがった。これらは授業でタブレットや Google Workspace を使い続けることで、教員も生徒も情報リテラシーが向上したり、改善していくことと考える。

参考:家庭科技術検定関係、動画、サイト他 ※4級検定の概要